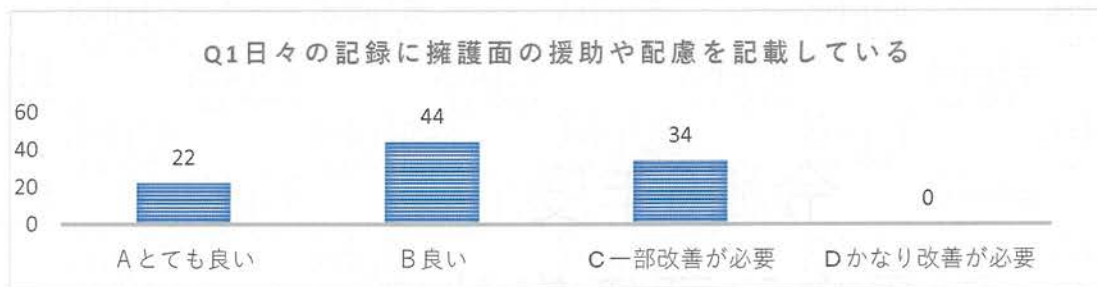


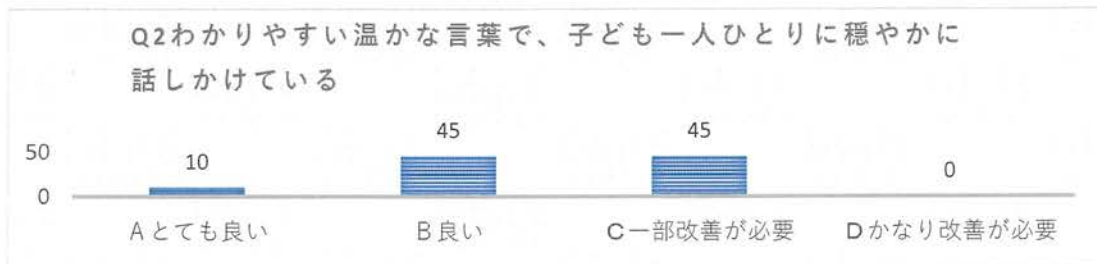
令和6年度
職員自己評価集計表

はねかわ保育所

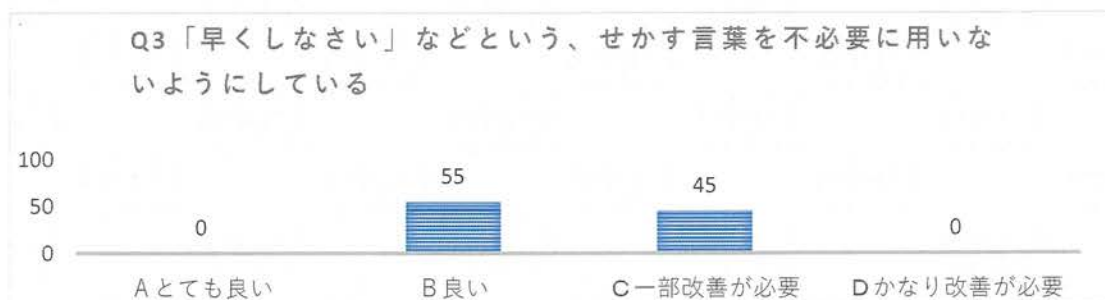
【養 護】



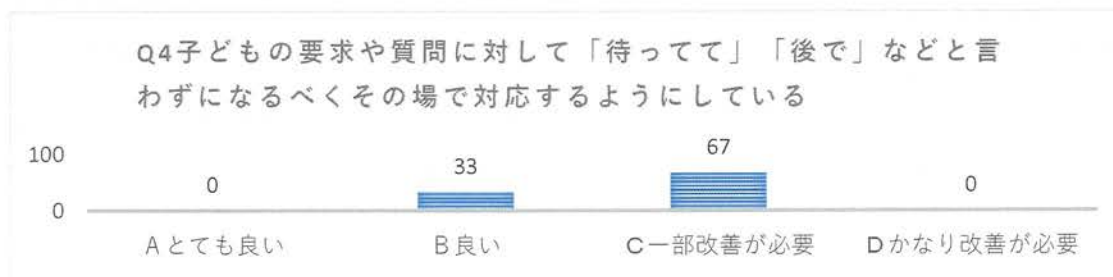
園評価【C】



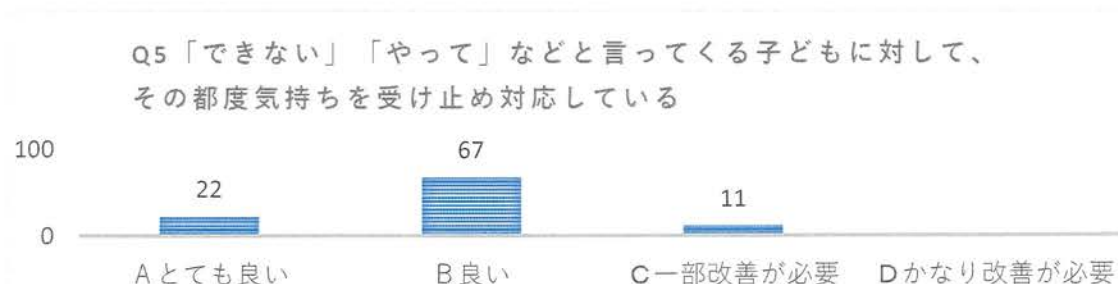
園評価【B】



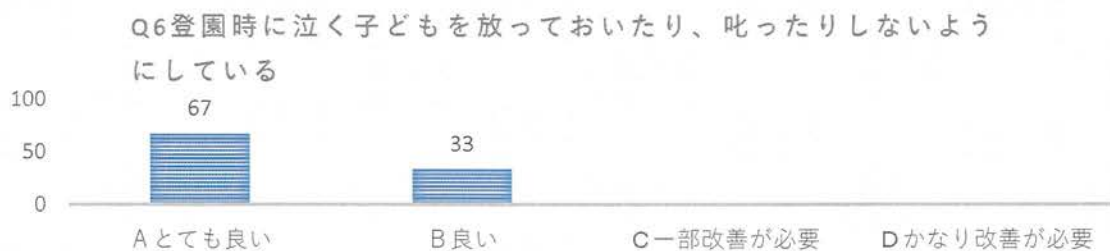
園評価【B】



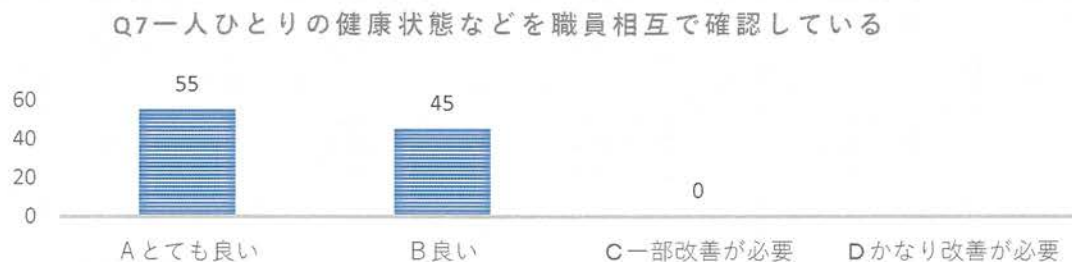
園評価【C】



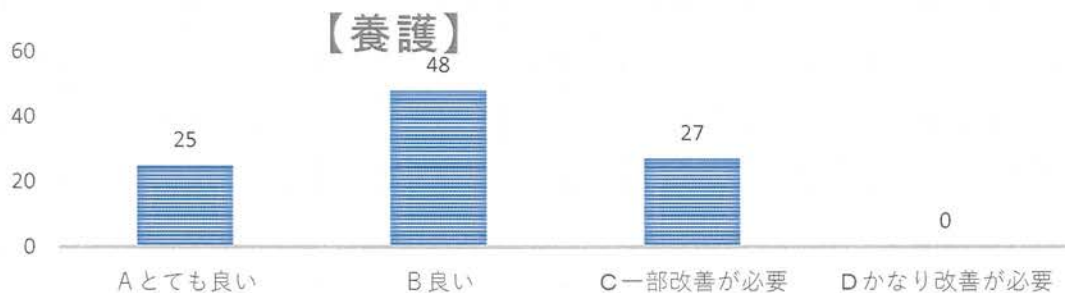
園評価【B】



園評価【B】



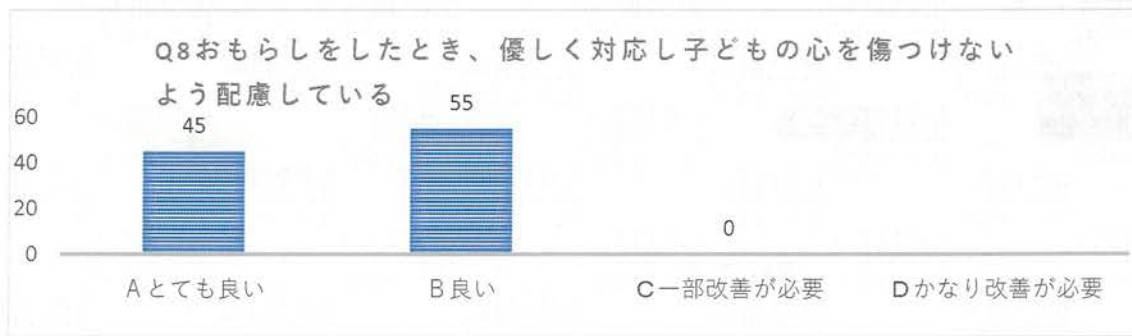
園評価【B】



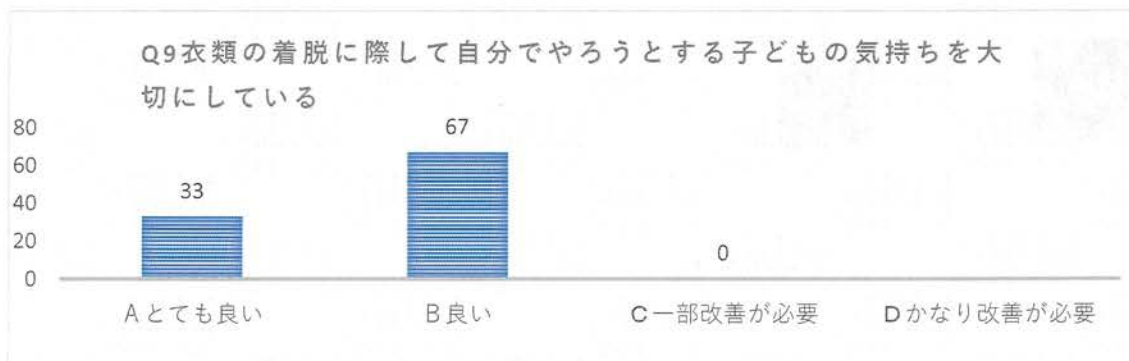
園評価【B】

全体としては、一人ひとりの子どもの気持ちを受け止めて不安な気持ちに寄り添うことはできているようだ。集団生活の中での対応について職員が「一部改善が必要」との評価につながったと判断する。子どもに接する際に大切なところでもあるため自分たちの保育を見直して改善に努めたい。

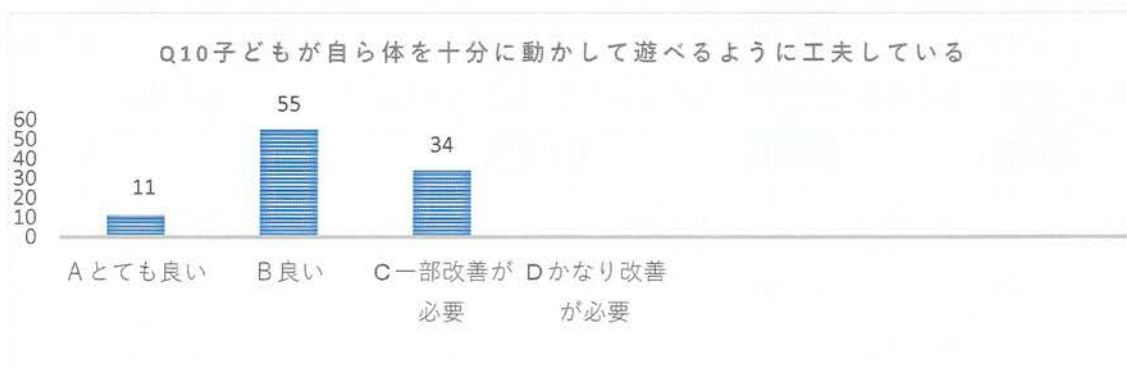
【健康】



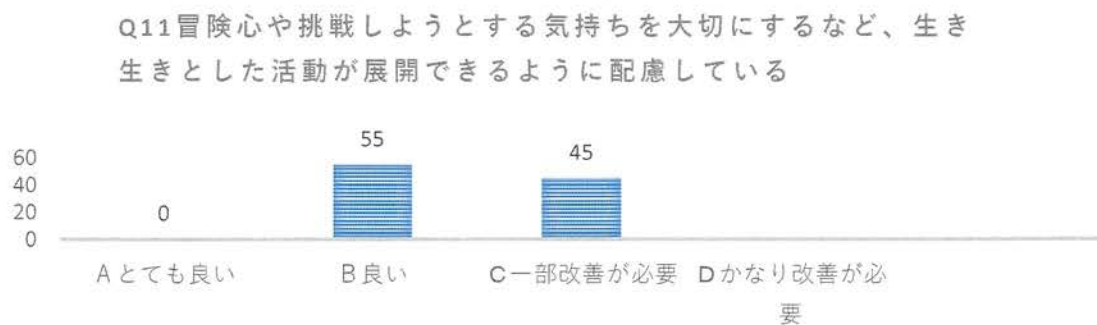
園評価【B】



園評価【B】

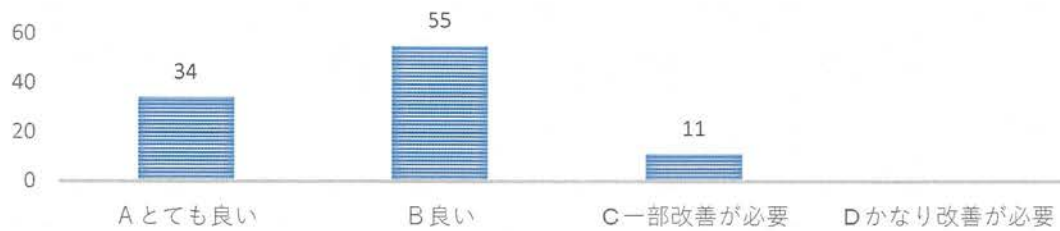


園評価【B】



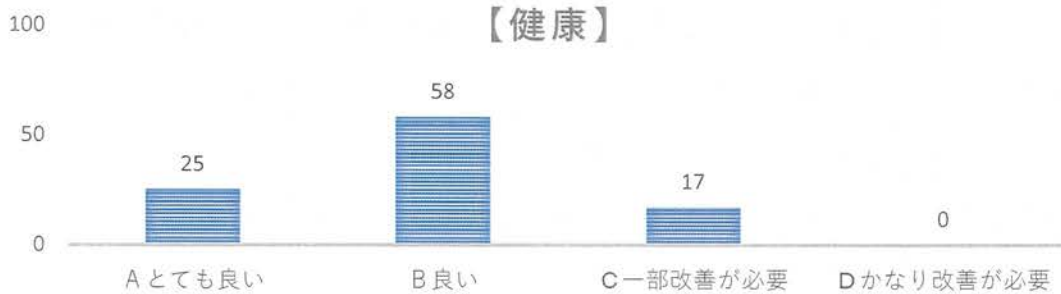
園評価【B】

Q12基本的な生活習慣や態度を身に付けることの大切さを理解し、適切な行動がとれるように配慮している



園評価【B】

【健康】



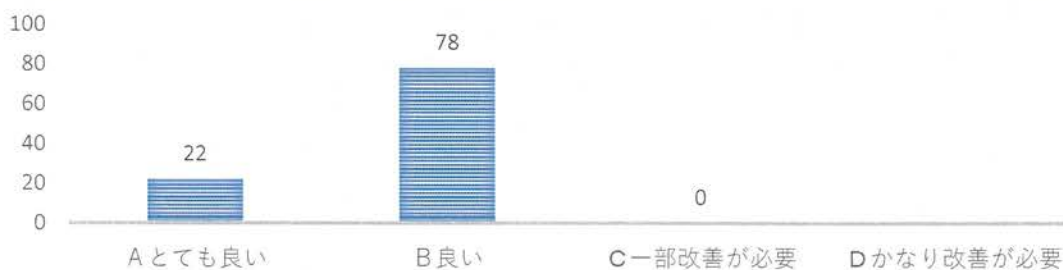
園評価【B】

健康に過ごすために、保育所で十分に体を動かすことや、生活習慣を身につけ日々快適に過ごすことができるよう工夫している。

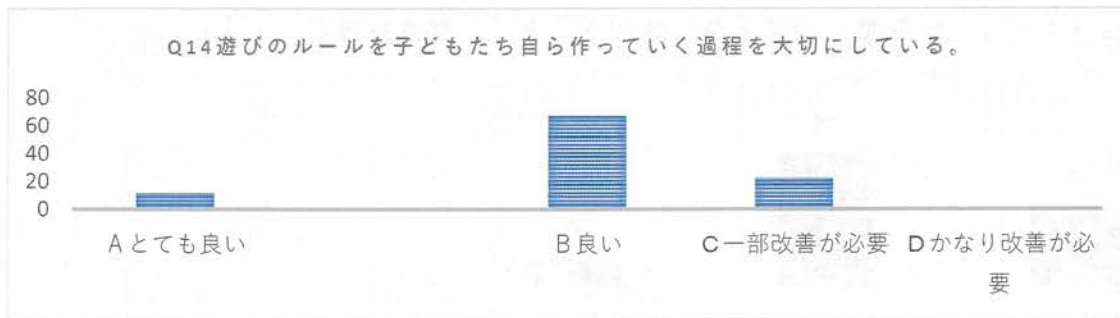
生活の中で保育者ができる援助、声掛け等、一人ひとりの個性に応じた対応を心がけているが時には空回りしてしまうこともあるようだ。保育者は成長していく子どもにゆとりをもって接していくよう心がけている。

【人間関係】

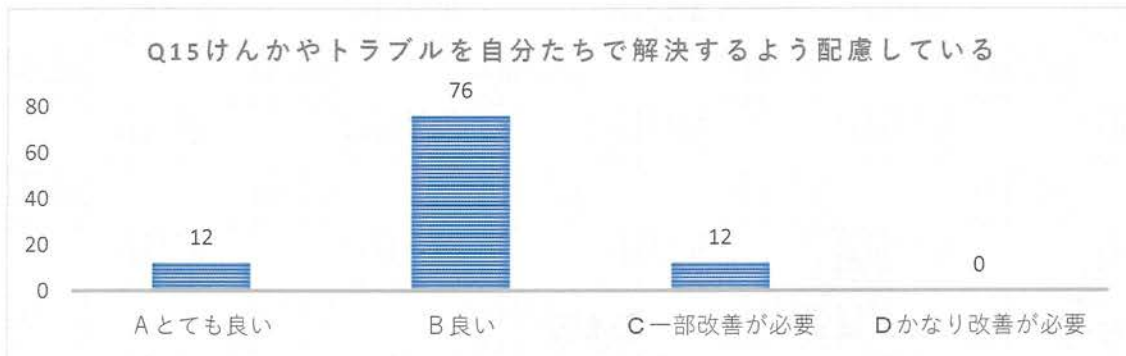
Q13順番を守るなどの社会ルール（決まり）を身につける機会を大切にしている



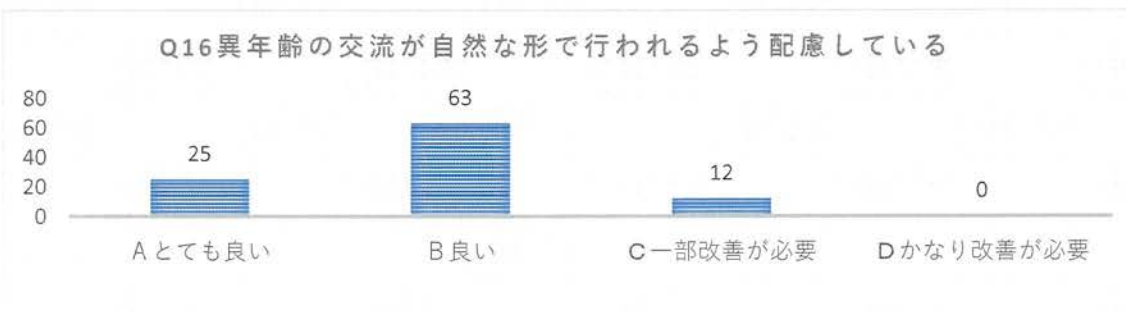
園評価【B】



園評価【B】

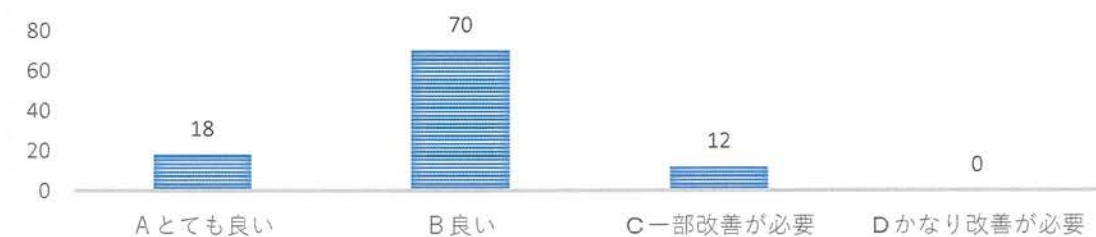


園評価【B】



園評価【B】

【人間関係】

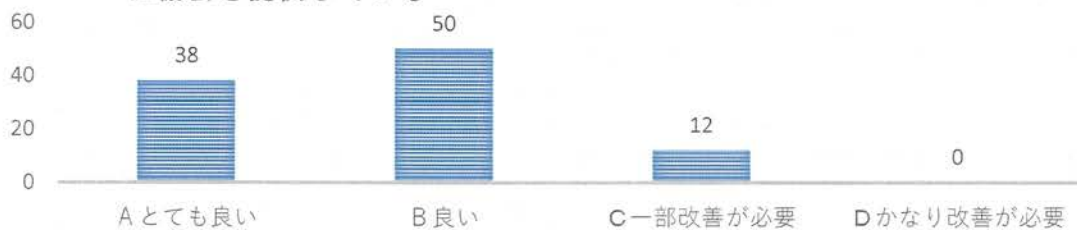


園評価【B】

少人数クラスのため「合同保育」が必要となってきた。年上児に憧れを持ち、年下児の世話をする、という場面が多くみられた。その中で遊びの輪が広がって異年齢でのあそびが展開していったことは、子ども達にとって良い経験だった。単独クラスで活動する部分でも担任保育士との関わりをより深め「自分の個性」を発揮する場としていきたい。

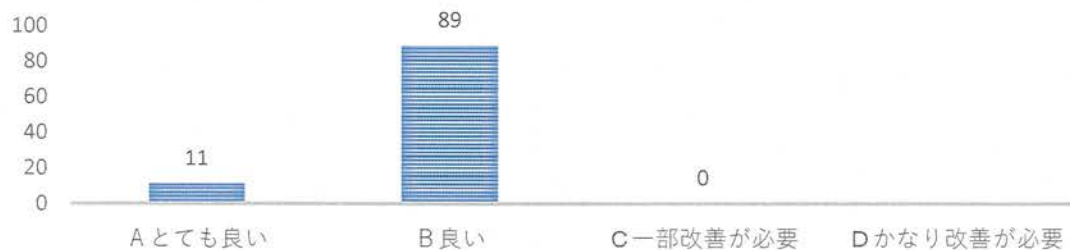
【環境】

Q17自分のもの、他人のもの共同のものの区別に気づけるように機会を提供している



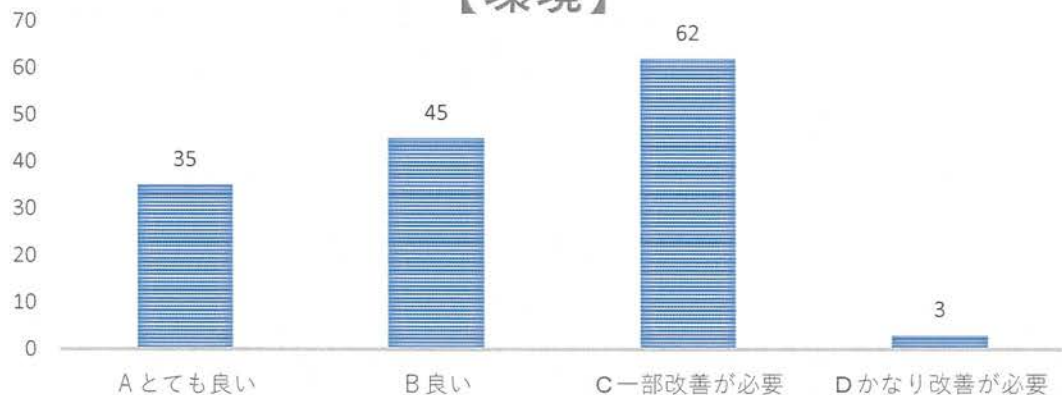
園評価【B】

Q18保育の中で手伝いをするなど、人の役にたつ体験ができるような機会を意図的に取り入れている



園評価【B】

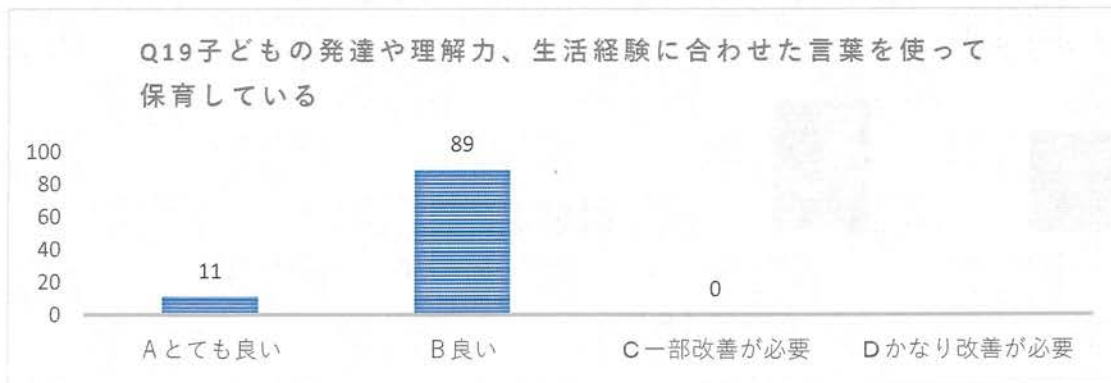
【環境】



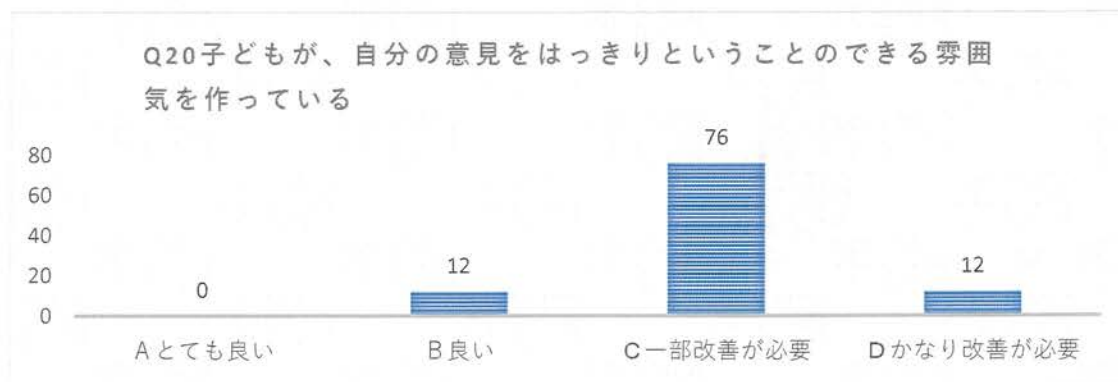
園評価【B】

保育の中でお手伝いや当番活動をすることで子どもたちが意欲をもって生活することができている。遊びや生活の中で、機会を見て「自分のもの」「他人のもの」「共同のもの」に気づけるよう声をかけている。また、丁寧に扱うことで物を大事にする気持ちが育つようにしている。環境活動でも、職員が積極的に関わり子どもと一緒に園舎内外の環境整備に取り組んでいる。合同保育が多いため「環境設定」についてはさらに改善していく必要がある。

【言葉】



園評価【B】



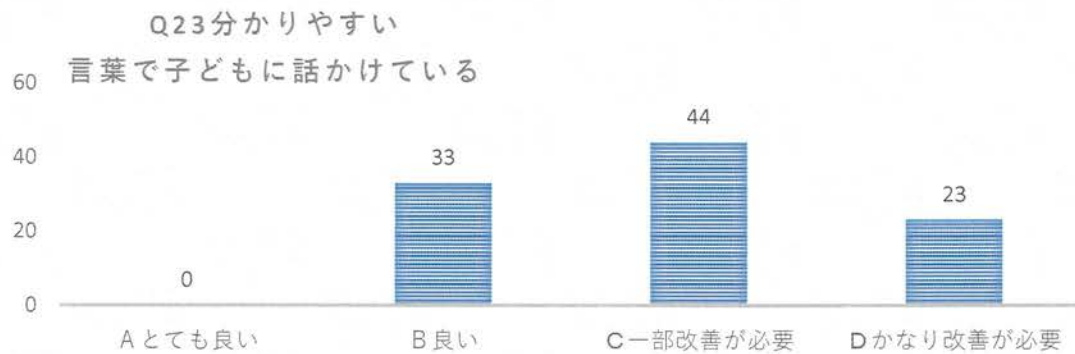
園評価【C】



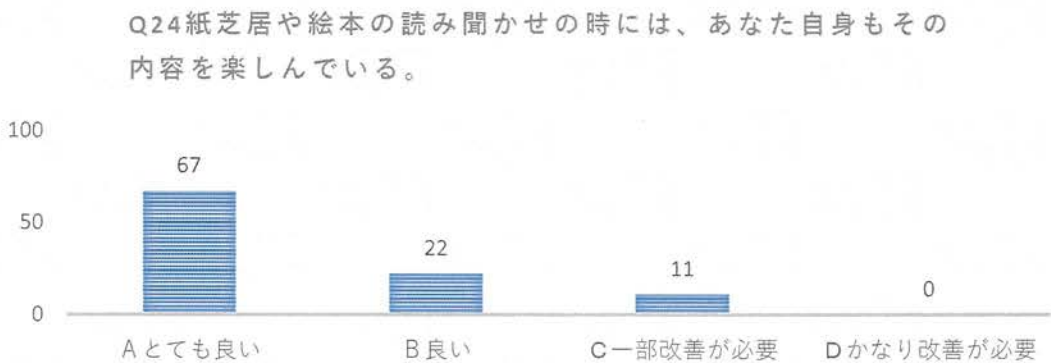
園評価【B】



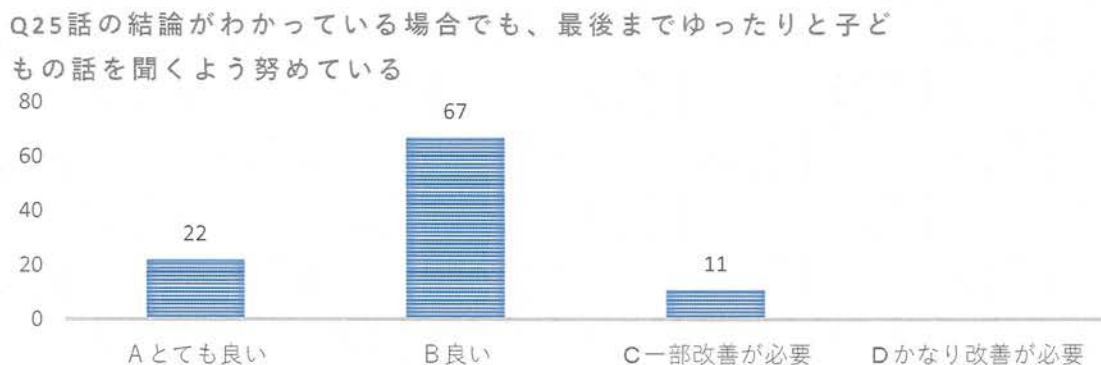
園評価【B】



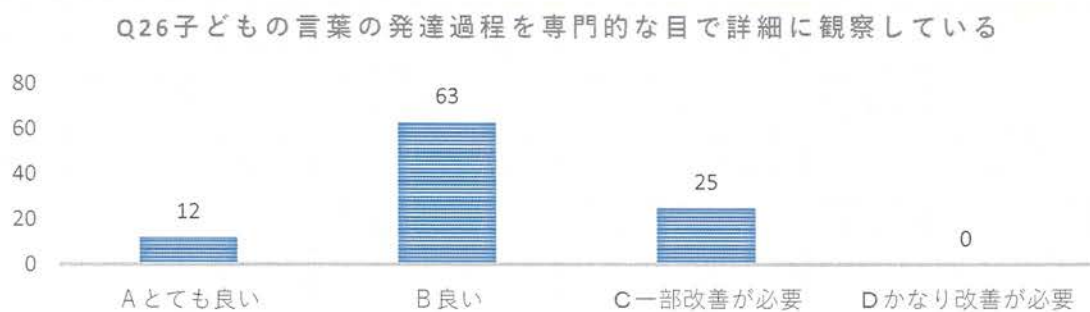
園評価【C】



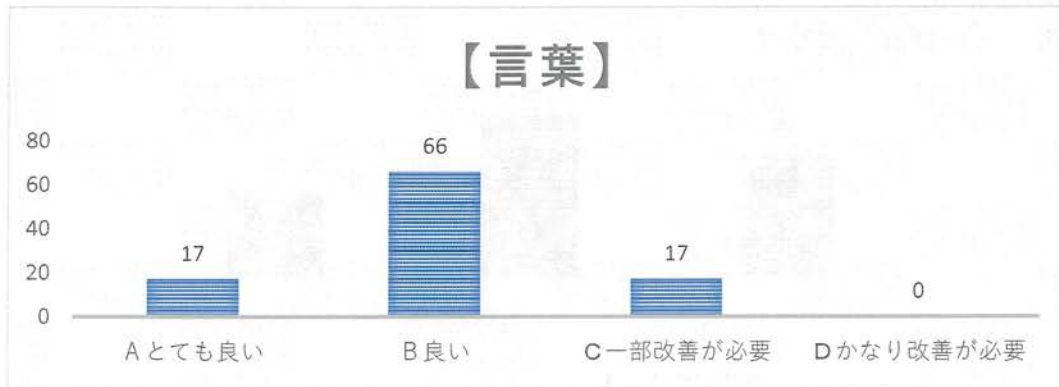
園評価【A】



園評価【B】



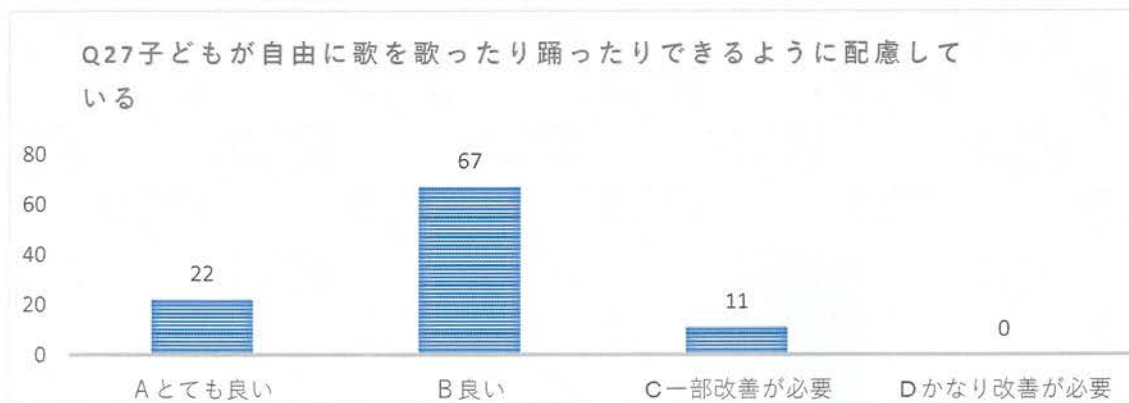
園評価【B】



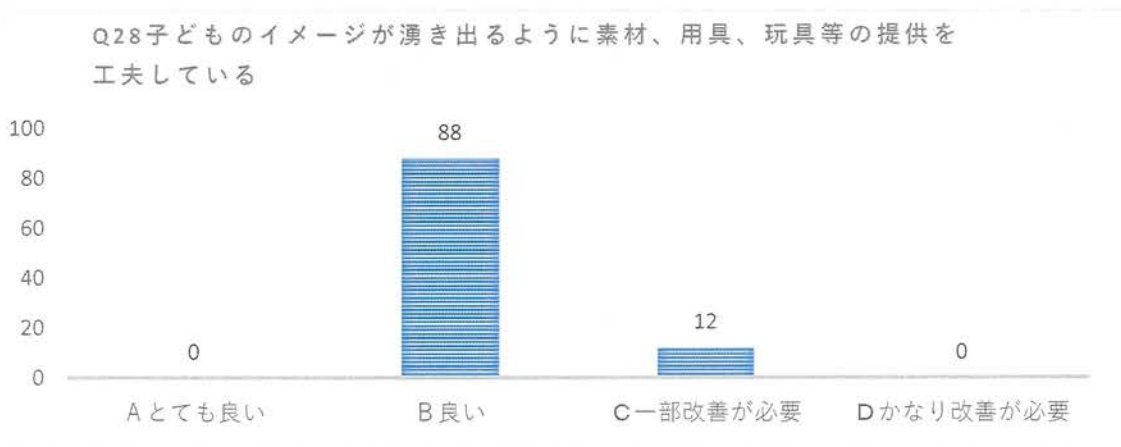
園評価【B】

保育所生活の中で絵本との関わりは大変重要である。子どもたちが好きな絵本を選び保育士が読み聞かせ、また、帰りには絵本を借りて家庭で呼んでもらう。絵本から様々な「言葉」や「感情」を体得し、それがいつしか自分のものとなっていく。言葉は足りなくても思いは十分伝わることを再確認した。昨年度と比較してQ20が本年度はC評価となっていることは今後の検討課題である。

【表現】

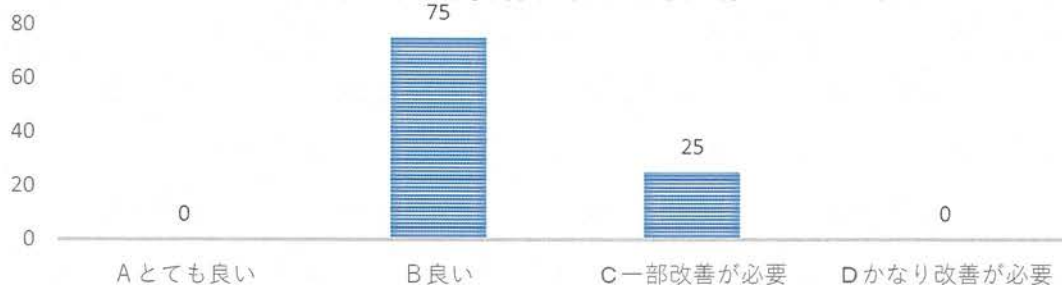


園評価【B】



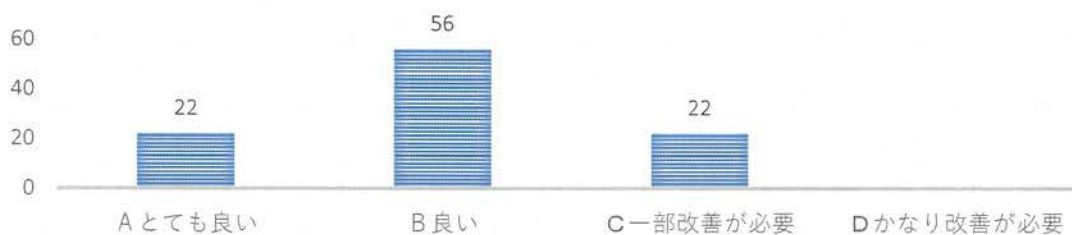
園評価【B】

Q29言葉、絵、造形、音など子どもが最も得意な方法で、見た
もの感じたものを表現することを大切にしている



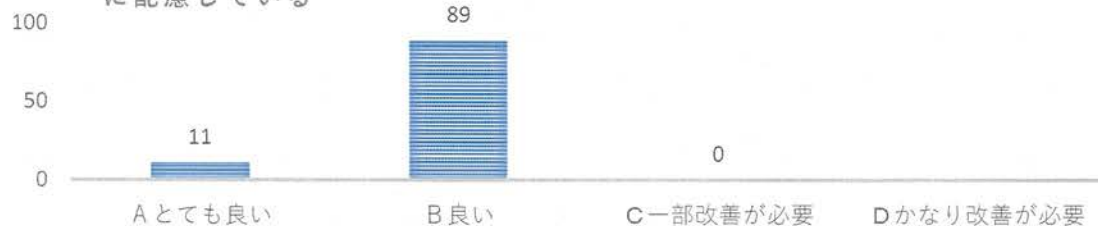
園評価【B】

Q30遊具の正しい使い方を、一人ひとりに丁寧に教えたり見
守っている。



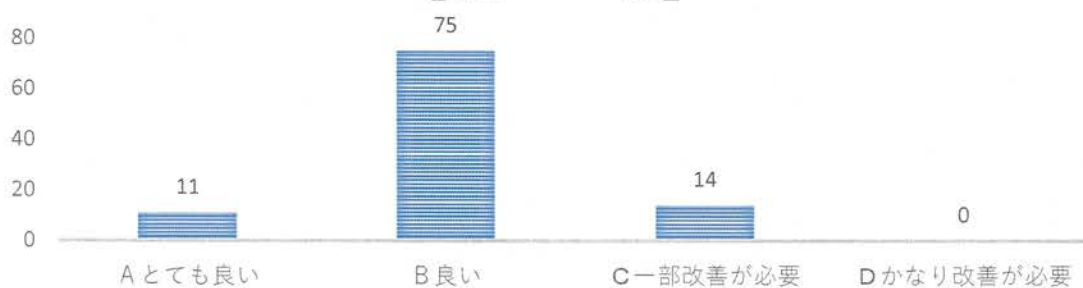
園評価【B】

Q31子どもがみんなで一緒に表現することの喜びを味わえるよう
に配慮している



園評価【B】

【表 現】

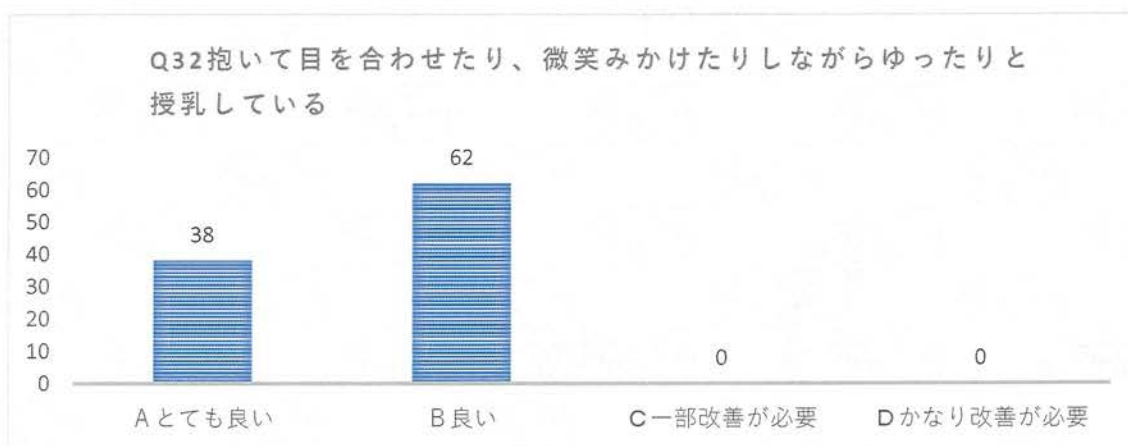


園評価【B】

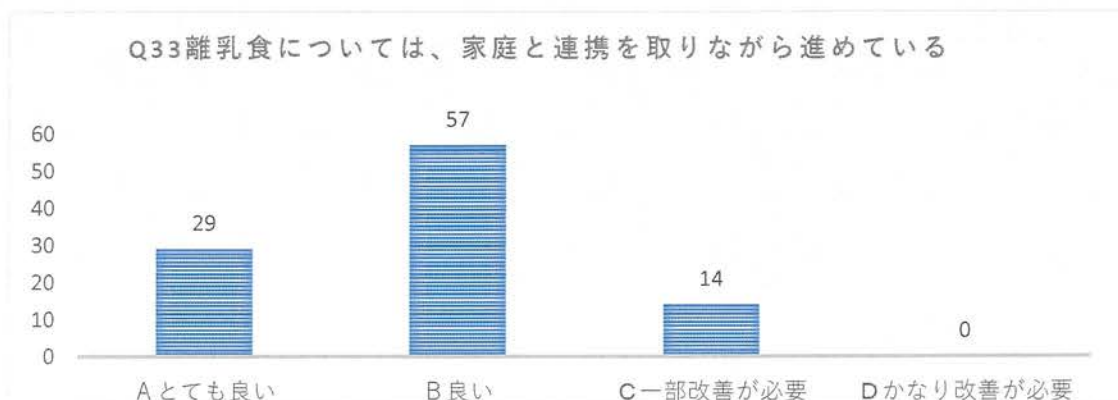
本年度は、地域の行事にも参加させて頂き、保育所以外の間での発表を経験した。コロナ禍以来初めての行事で子どもは緊張と達成感を味わうことができた。運動会、おゆうぎ会においても各年齢に応じた活動を保護者にも披露できた。

製作についても、行事や四季折々に応じた作品を仕上げ、町内会の展示会や、スーパーの展示会等に出品した。保育士が様々な材料を工夫して子どもたちも喜んで製作している姿がある。

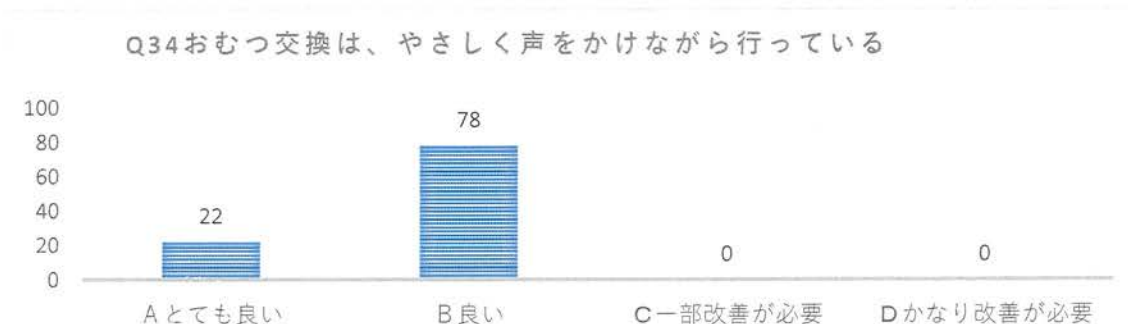
【乳児保育】



園評価【B】

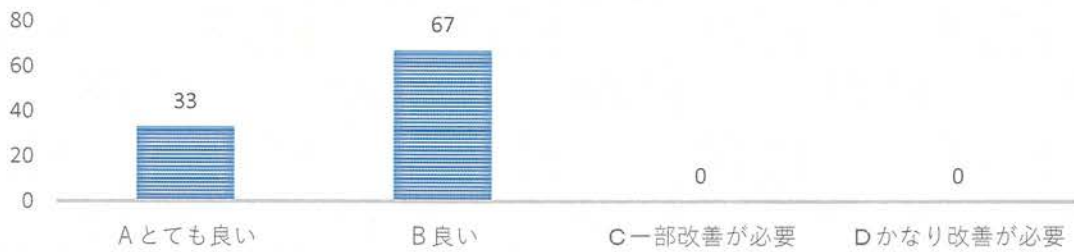


園評価【B】



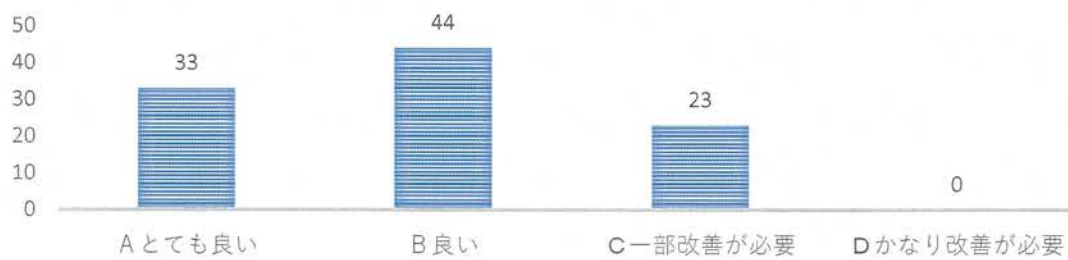
園評価【B】

Q35喃語にはゆったりとやさしく答えている



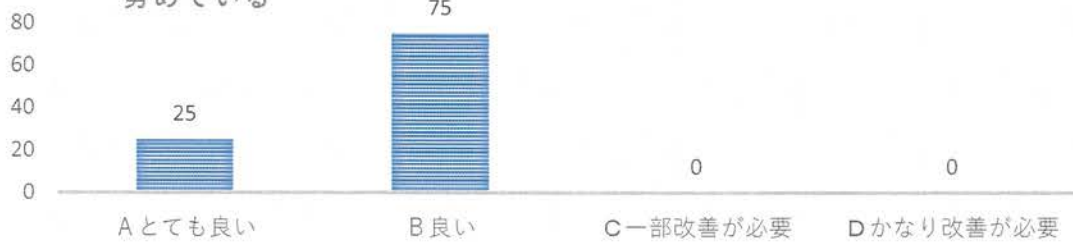
園評価【B】

Q36午睡の際は、うつぶせに寝せないようにしている



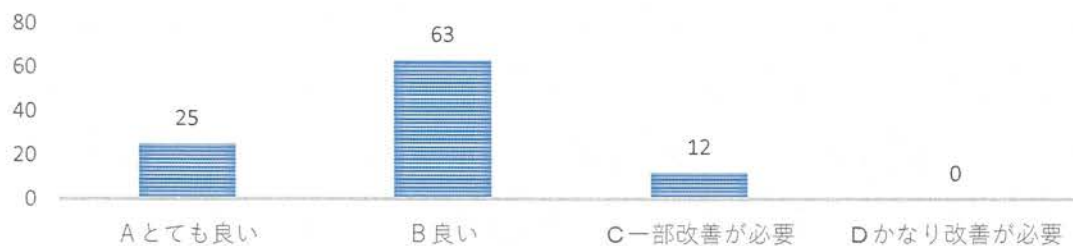
園評価【B】

Q37たて抱き、横だきなど、子どもが様々な姿勢がとれるよう
努めている

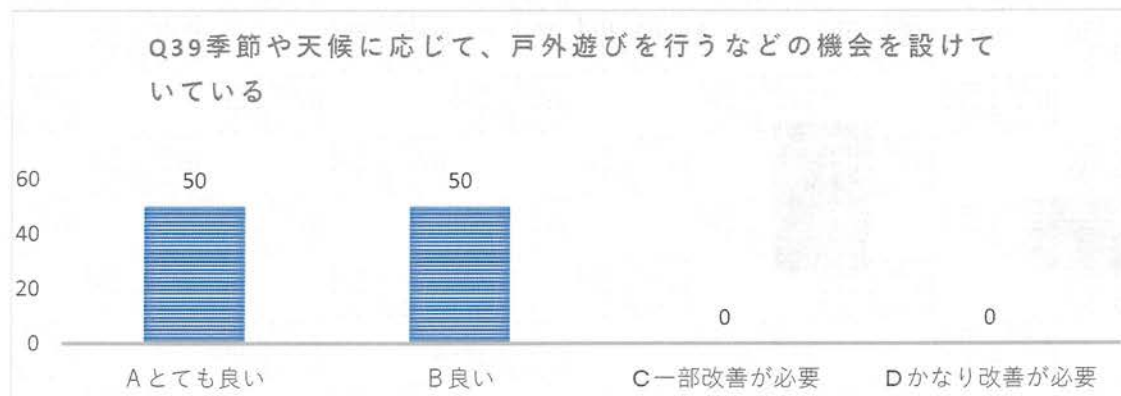


園評価【B】

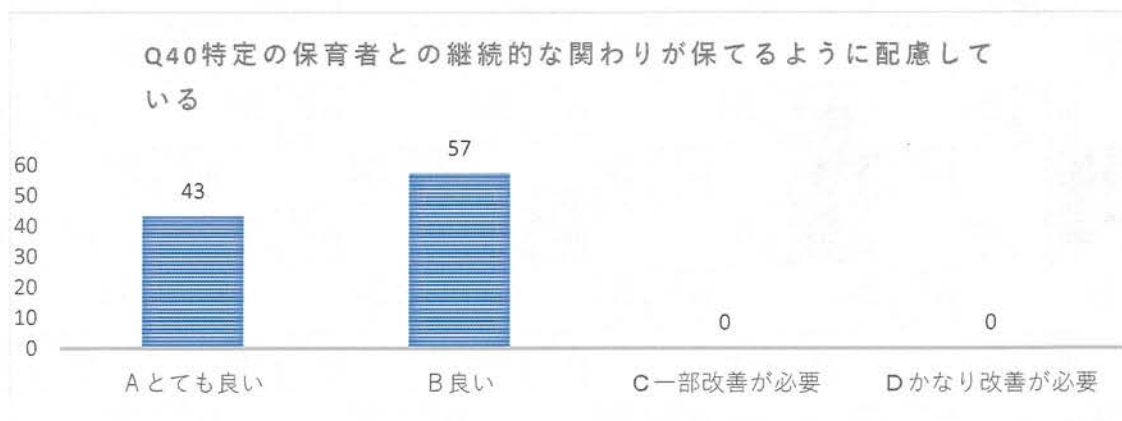
Q38体を適度に動かす遊びや、リズムを伴ったふれあい遊びを
十分にしている



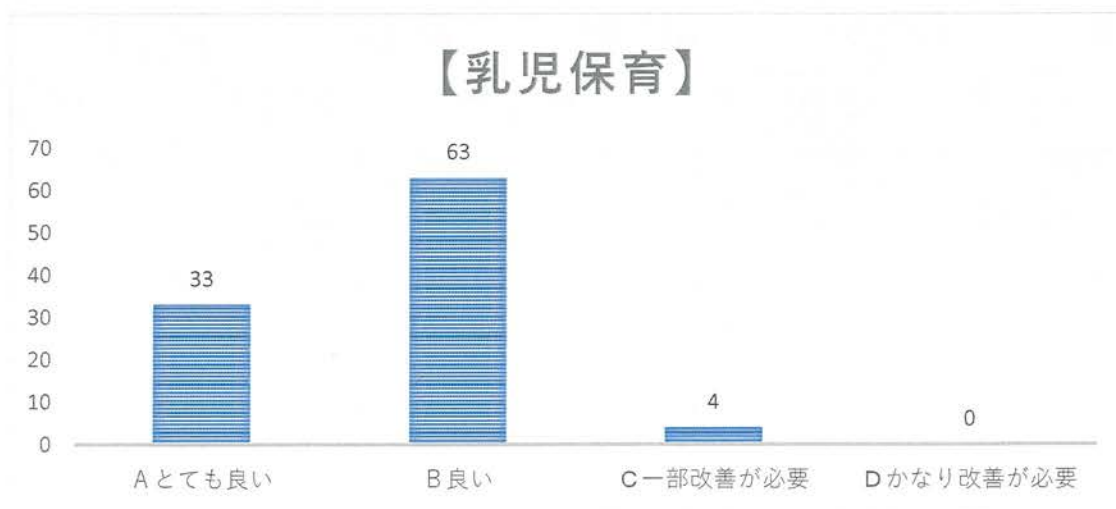
園評価【B】



園評価【A】



園評価【B】



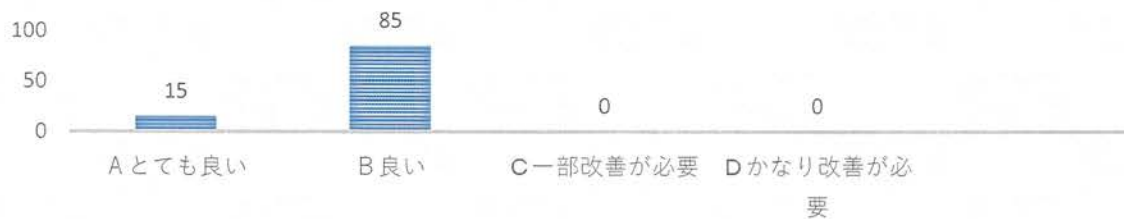
園評価【B】

本年度は4月から0歳児が2名在籍で途中入所で12月現在5名となった。1歳児6名2歳児8名の合計19名で入所児の約60%が未満児となっている。職員配置が厳しいところであるが、全職員がきめ細かい保育を心がけている。

離乳食については家庭と連絡を取りながら進めてきたが、その家庭によって離乳食への関心の有無あり、連絡を取り合うことがなかなか大変な場面もあった。

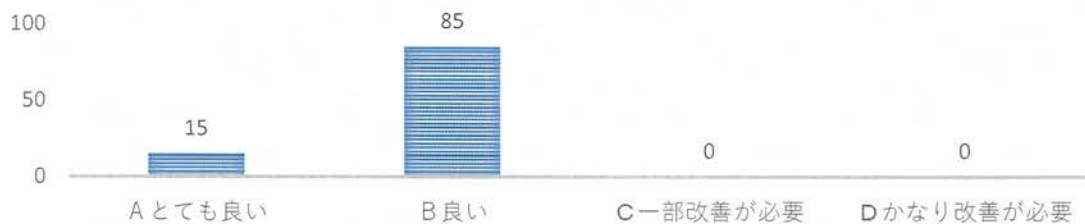
【障がい児保育】

Q41障がいのない子どもも、ある子どもも、お互いの良さを感じるよう心を配っている



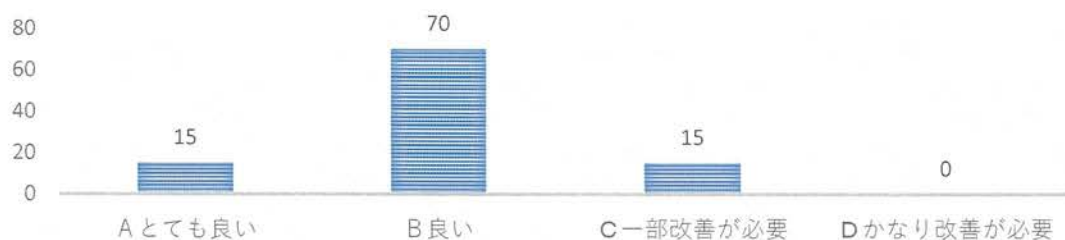
園評価【B】

Q42障がい児保育について保育所全体で定期的に話し合う機会を設けている



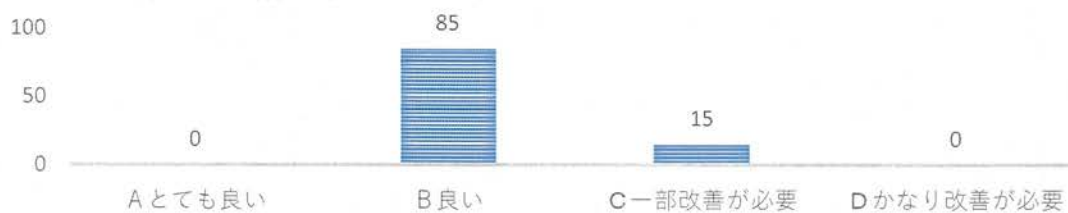
園評価【B】

Q43医療・療育機関などの専門機関から必要に応じ助言を受けている



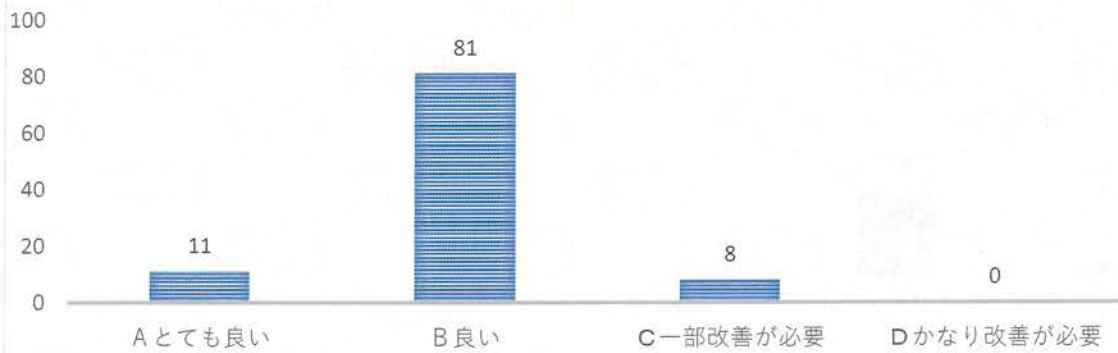
園評価【B】

Q44障がい児の保護者と話し合う場などを日常的に設け、保護者への支援を心がけている



園評価【B】

【障がい児保育】

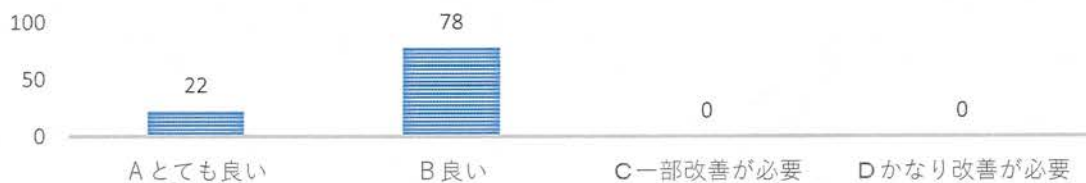


園評価【B】

今年度も障がい児として認定された児童の在籍はなかった。しかし「ちょっと気になるこども」については、保育者同士で情報交換をしてその子どもに対する接し方が工夫できた。卒園した子どもの小学校での様子についても情報交換を行った。また外部専門機関(栗田支援学校)から講師を招き勉強会を実施した。障がい児保育に関わらず、様々な情報を得て日常保育の中に活用している。

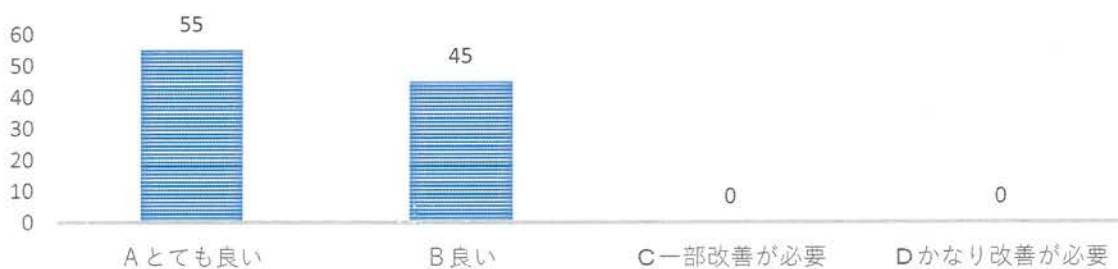
【子どもの人権】

Q45「男の子、女の子だから」と、性差による固定的な対応をしないよう配慮している



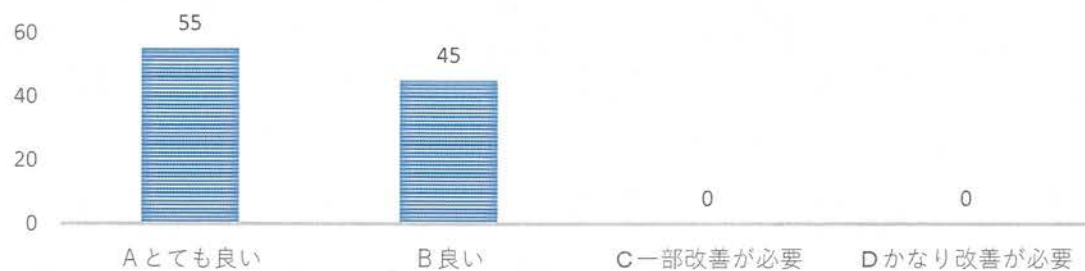
園評価【B】

Q46「それは男（女）の色」と、子どもの服装や持ち物について、性差による固定的な対応をしないよう配慮している



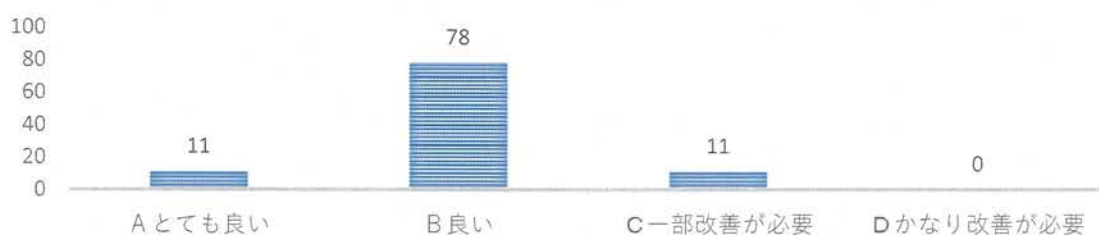
園評価【B】

Q 47「それは男（女）の仕事」などと、職業について性差への
先入観による固定的な対応をしないよう配慮している



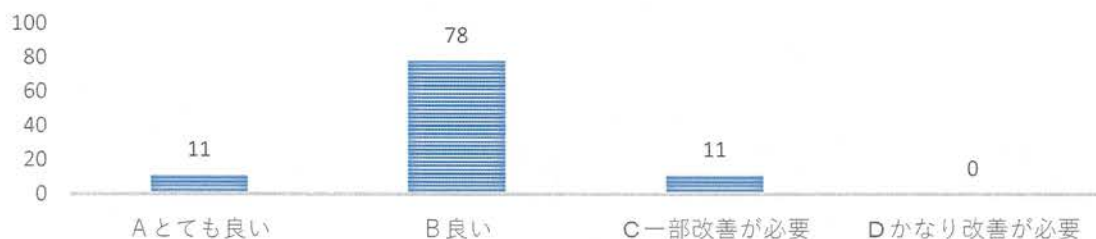
園評価【A】

Q 48子どもの名前を愛称ではなく、名前で呼ぶようにしている



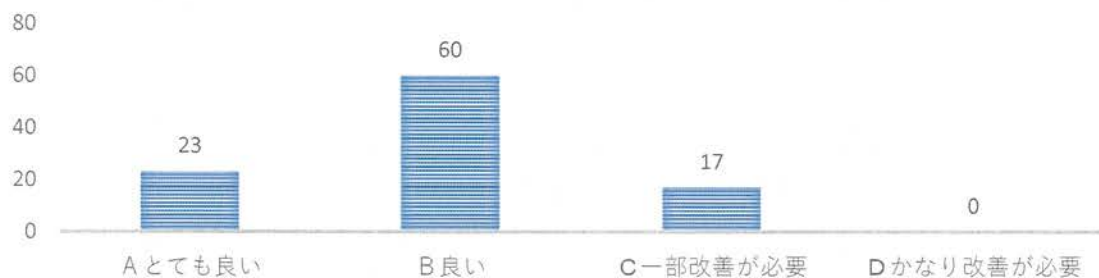
園評価【C】

Q 49不適切な養育や虐待を受けている子どもの早期発見とその
予防に努めている



園評価【B】

【子どもの人権】

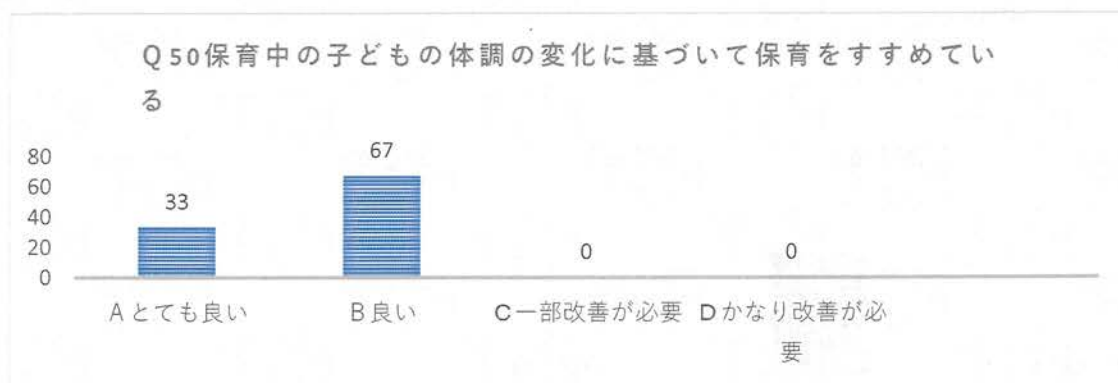


園評価【B】

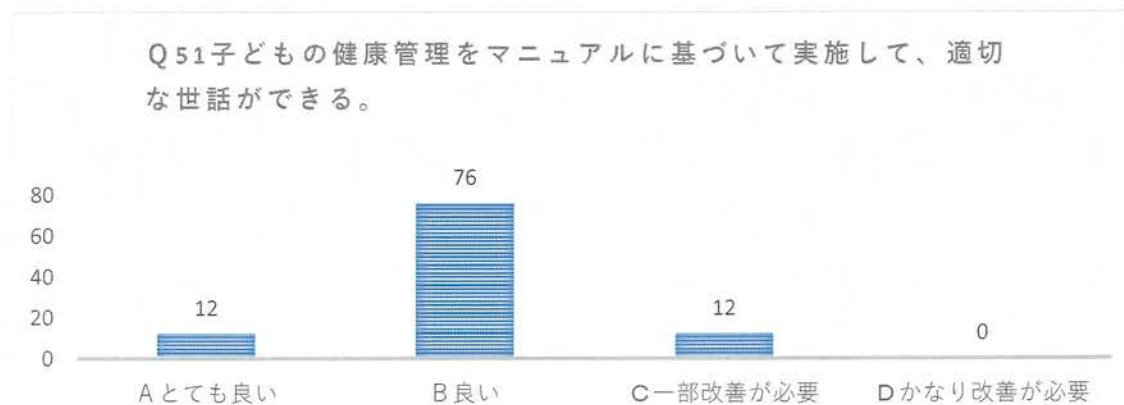
課題になっている子どもの名前の呼び方については、保育者が親しさの表れとは異なることを意識して「子どもの大切な名前」をきちんと呼ぶようにしている。

「不適切な保育」について様々な形で「こどもの人権を守る」ことを再確認し、特に着替えの場面では保育士が必ず見守る等保育者同士で確認し合ってすすめることができた。

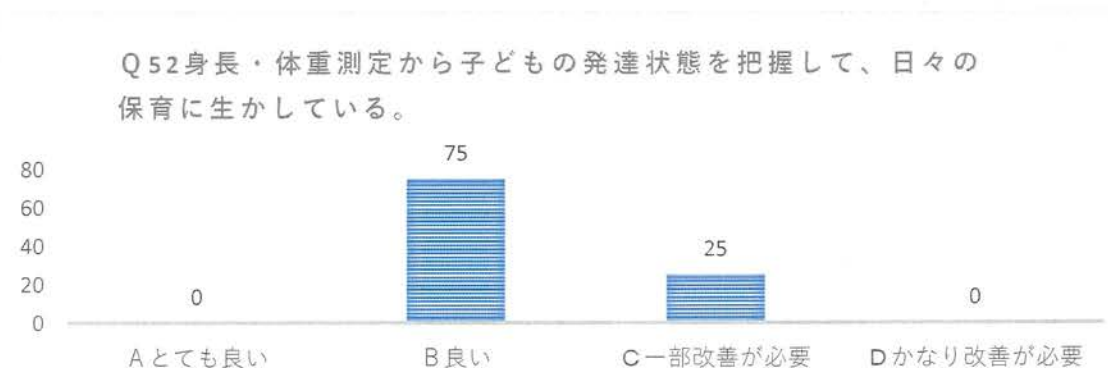
【健康管理・食事】



園評価【B】

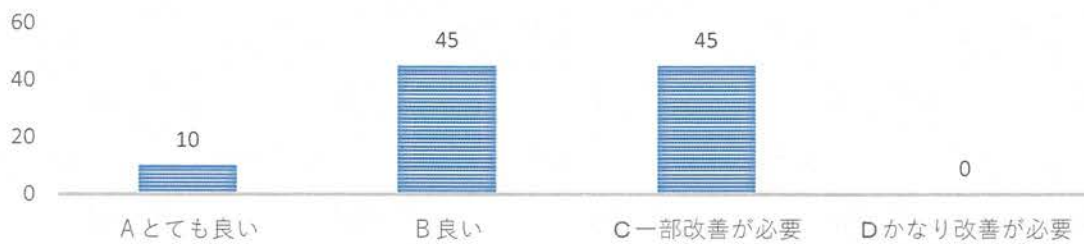


園評価【B】



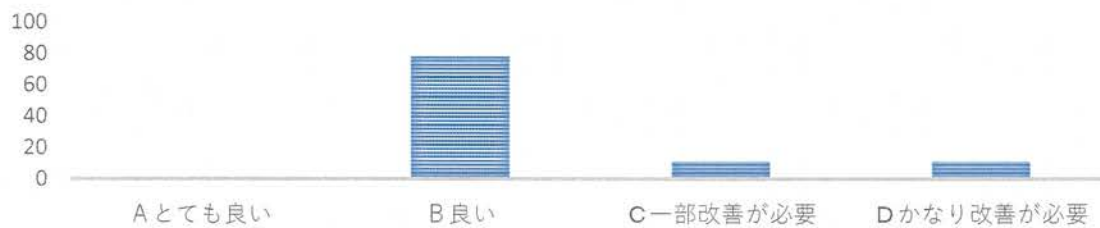
園評価【B】

Q53感染症について知識を持ち、マニュアルに基づいて必要な援助ができる。



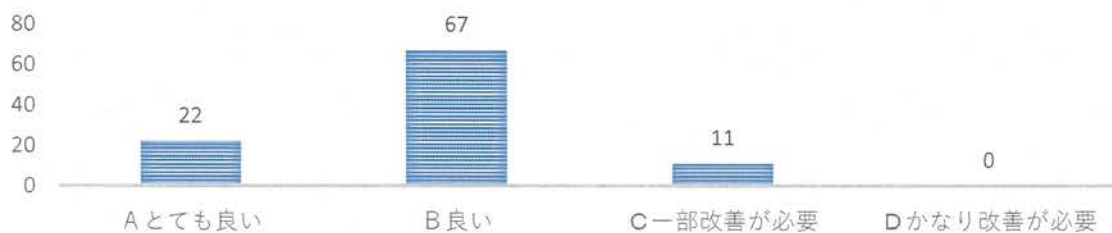
園評価【B】

Q54嘱託医による診断を子どもの健康状態や日常の保育に生かすよう努めている



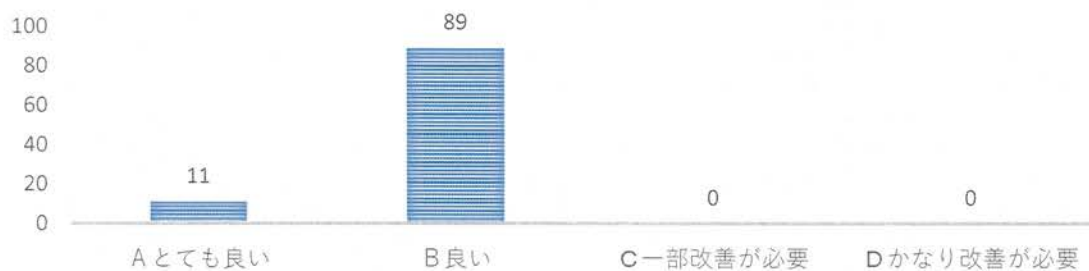
園評価【B】

Q55アレルギー疾患を持つ子どもに、その子どもの状況に応じて対応できる

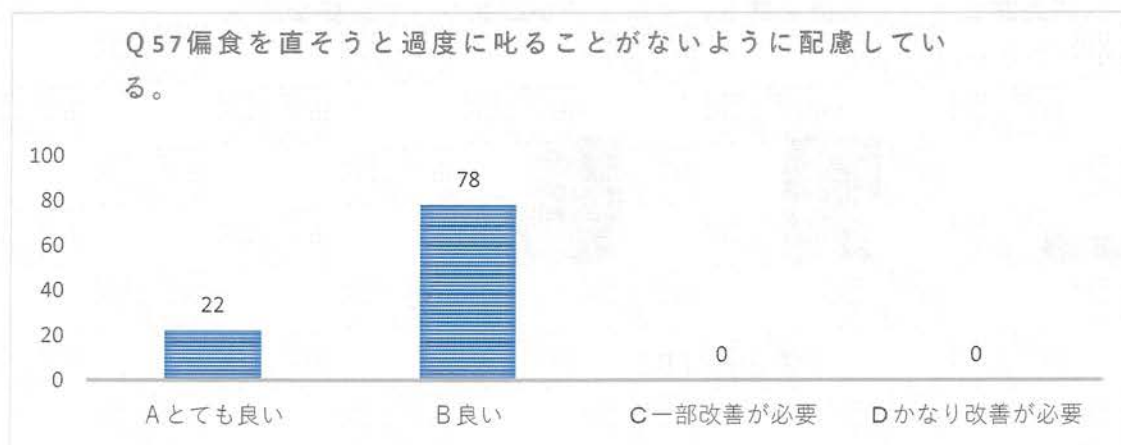


園評価【B】

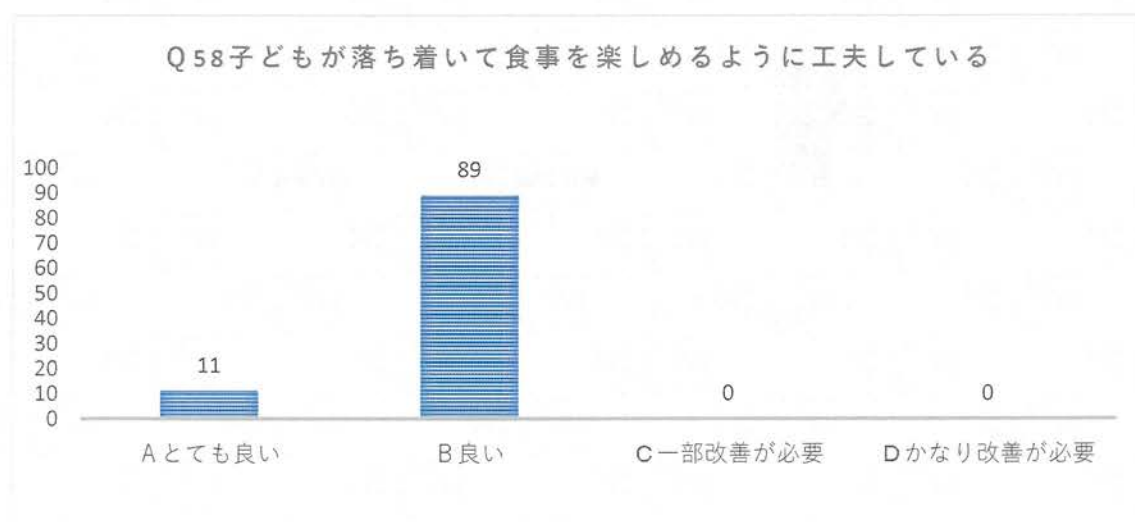
Q56一人ひとりの子どもの状態に応じて、食べられる量を加減するなどの配慮をしている



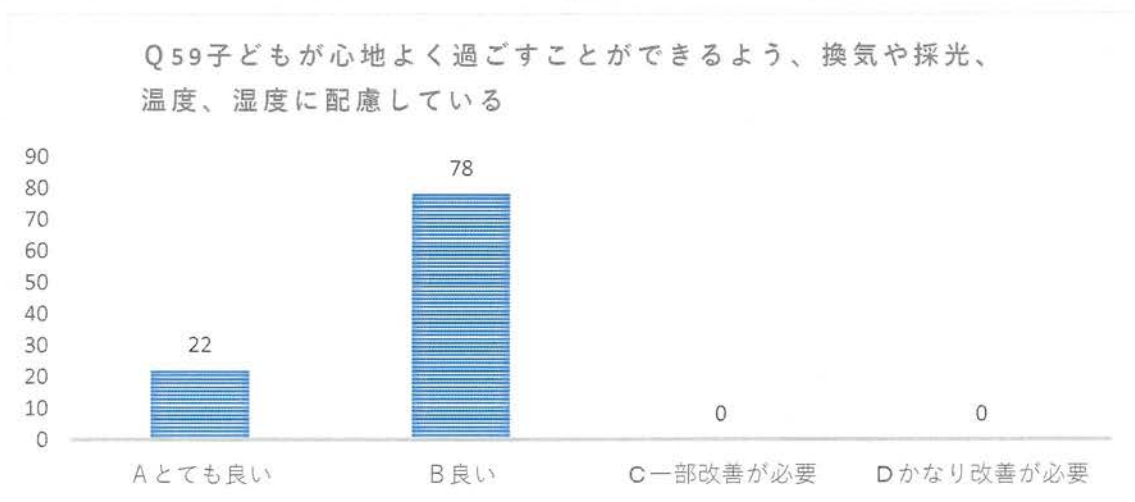
園評価【B】



園評価【B】

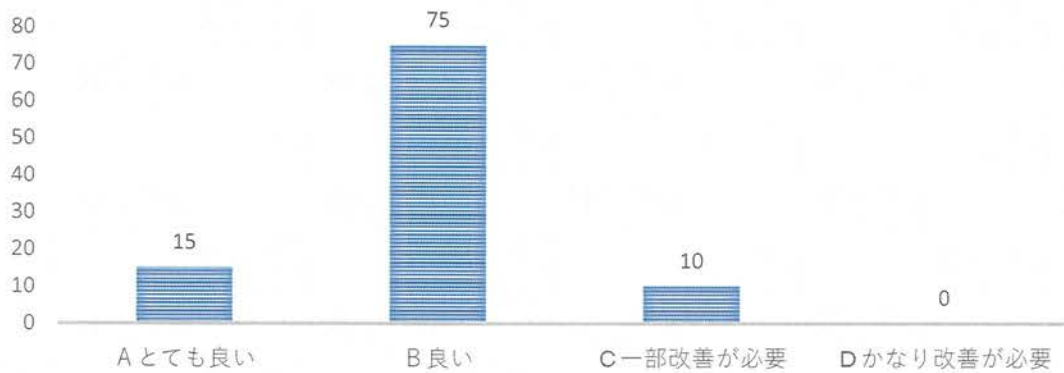


園評価【B】



園評価【B】

【健康管理・食事】



園評価【B】

子どもたちの体調の変化には常に気を配り、保護者からの連絡により外遊びができない子への対応もおおむね良好である。

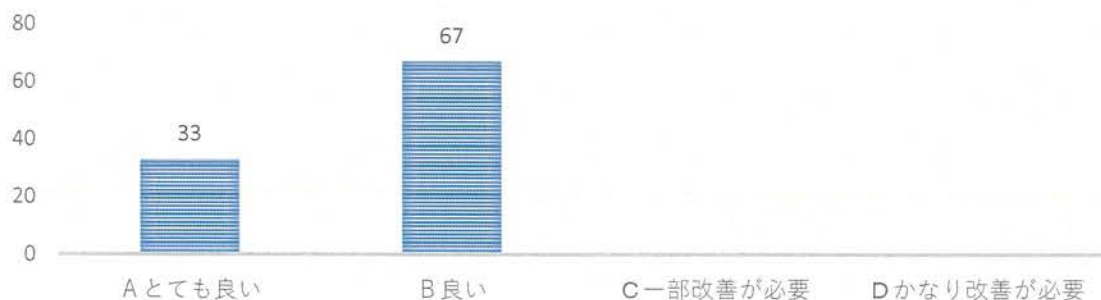
子どもの発育状況について、全職員で話し合い把握するようにした。感染症発生状況については保護者へ周知し感染拡大防止へ理解を求めた。

食事については概ね良好である。「楽しんで食べる」ことを大切にして子どもたちが「食べたい」と思える雰囲気作りに努めた。「好き嫌い」が極端な子どももいるが、決して無理強することなく見守っている。

アレルギー疾患を持つ子どもについては医師の指示書に従って対応している。

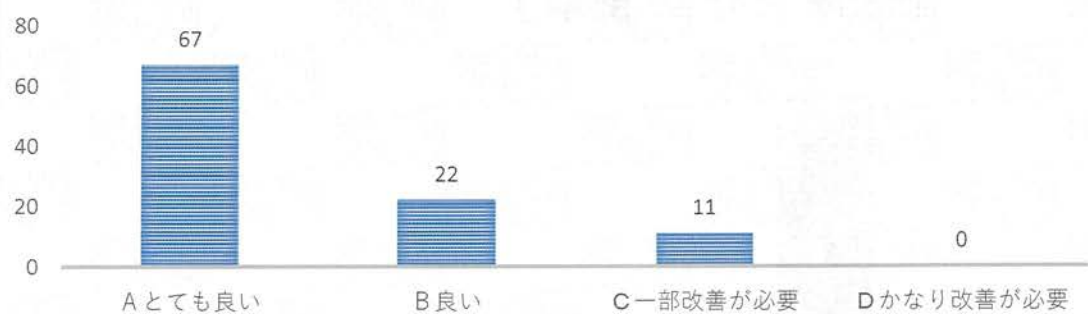
【保育環境】

Q 60 定期的に換気するよう努めている



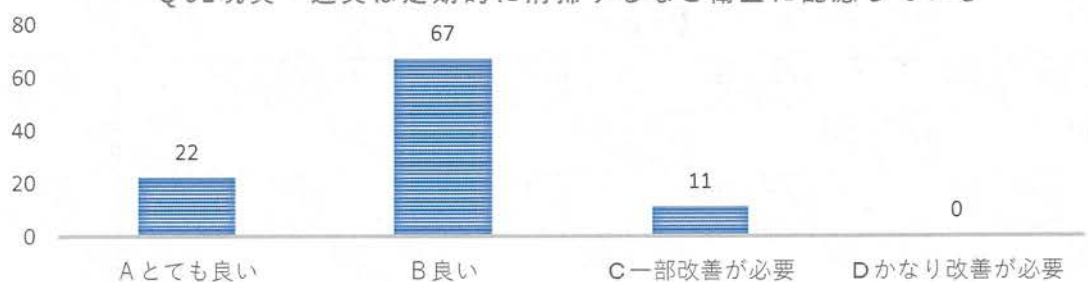
園評価【B】

Q 61適宜手洗い場を清掃し、清潔を保つようにしている



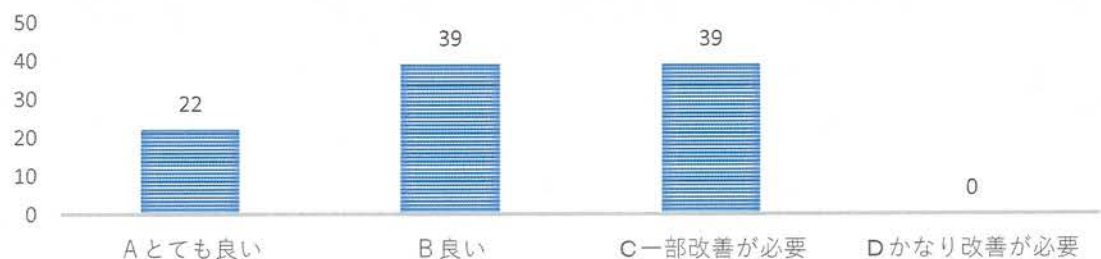
園評価【A】

Q 62玩具・遊具は定期的に清掃するなど衛生に配慮している



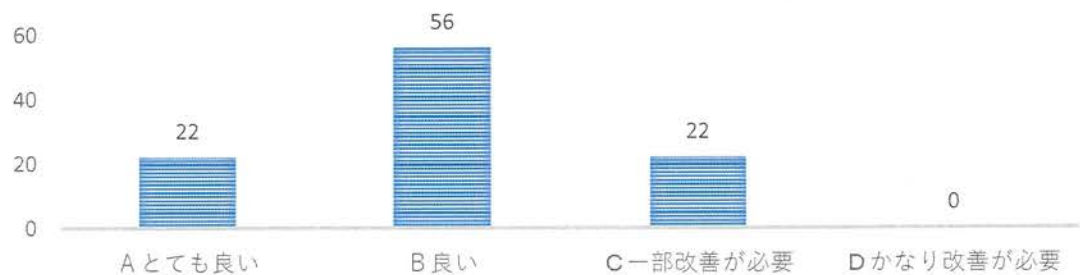
園評価【B】

Q 63保育中はあなた自身の声の大きさに配慮している



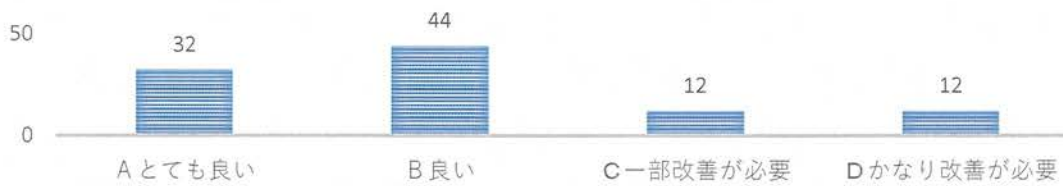
園評価【B】

Q 64子どもの発達段階に即した玩具・遊具を用意している



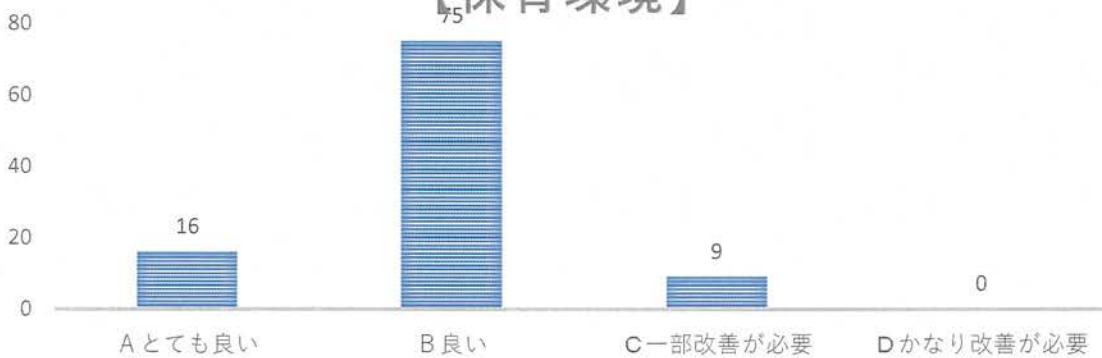
園評価【B】

Q 65子どもの作品を工夫して飾ったり、丁寧に保存するなど大切に扱っている



園評価【B】

【保育環境】



園評価【B】

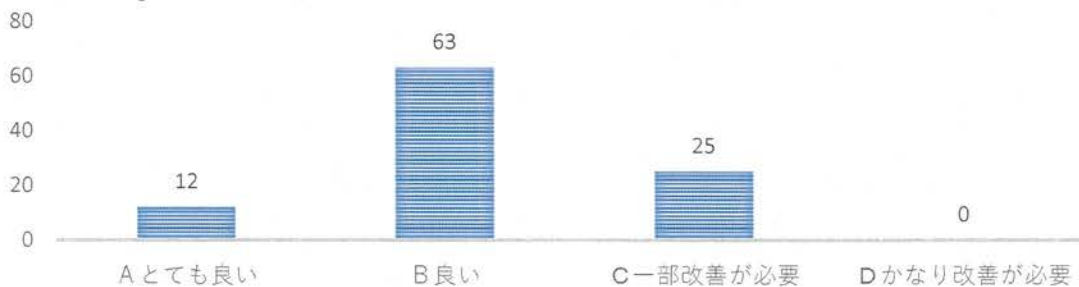
保育環境を整えるということは、子どもが安心して遊ぶことができることにもつながるため、職員一人ひとりが意識をもって取り組んでいる。

子どもの発達や興味を理解して玩具や遊具、教材等を整えて充実させていく。手作り玩具も職員が工夫している。

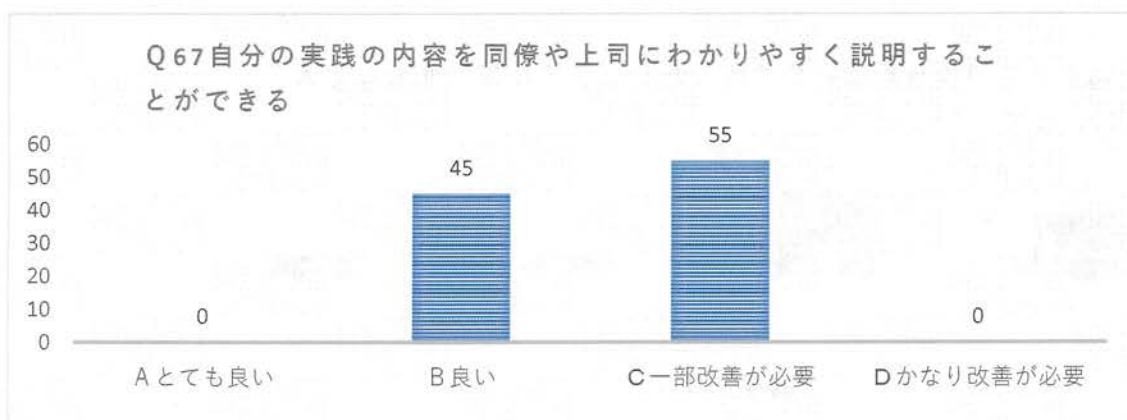
手洗い場やトイレについては、清潔を保つ意味でも保育者が気付き、適切に対応ができた。夏場は子どもトイレが暑くなることから、隣室の窓を開放しエアコンの冷気を回すように対処した。

【その他】

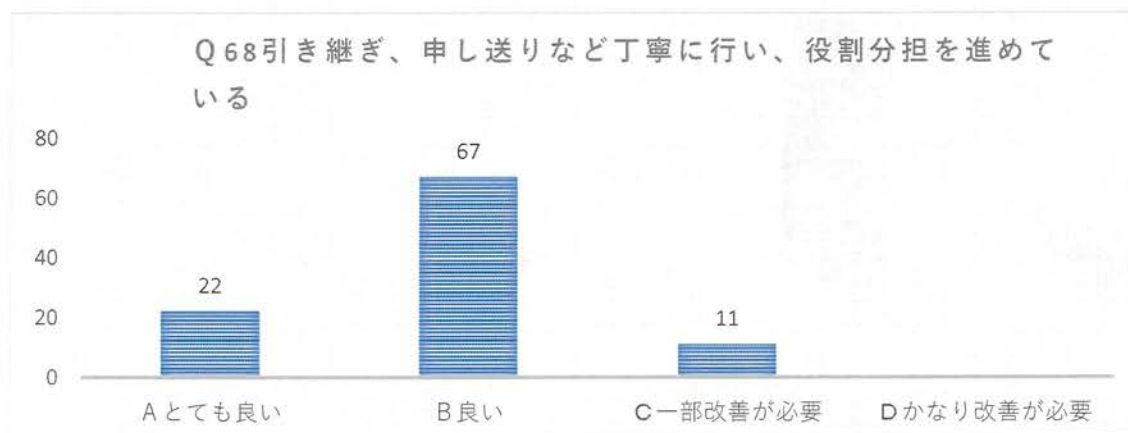
Q 66園の保育理念や基本方針を日々の保育に生かしている



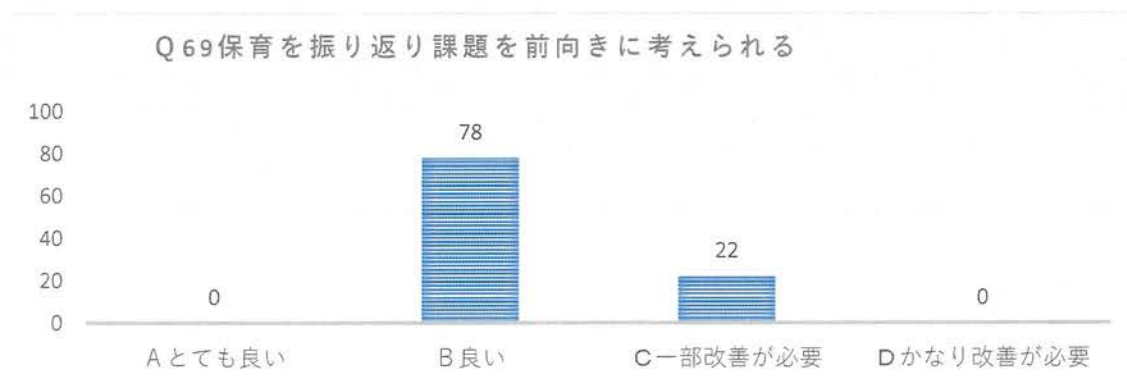
園評価【B】



園評価【C】

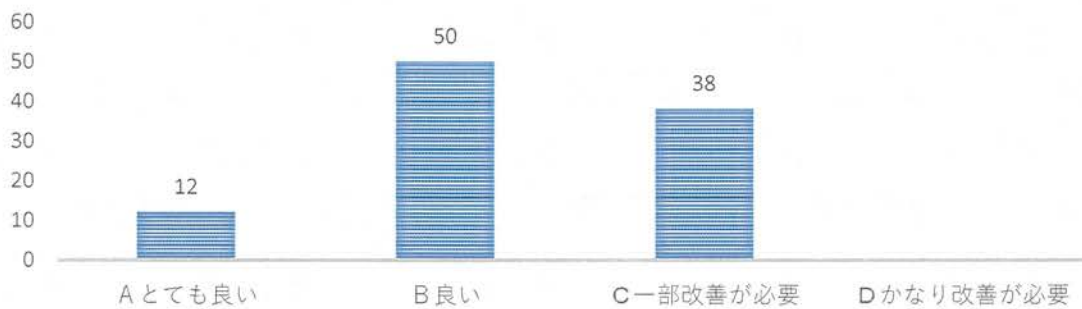


園評価【B】



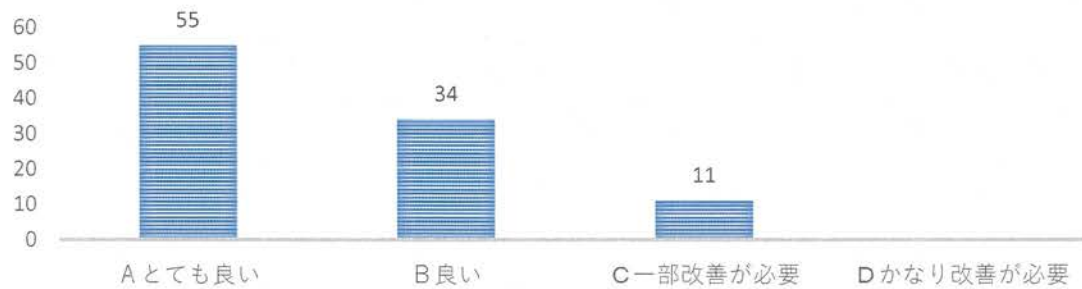
園評価【B】

Q70研修に参加したり専門書を読むなど保育に関わる様々な知識や技術の向上に努めている



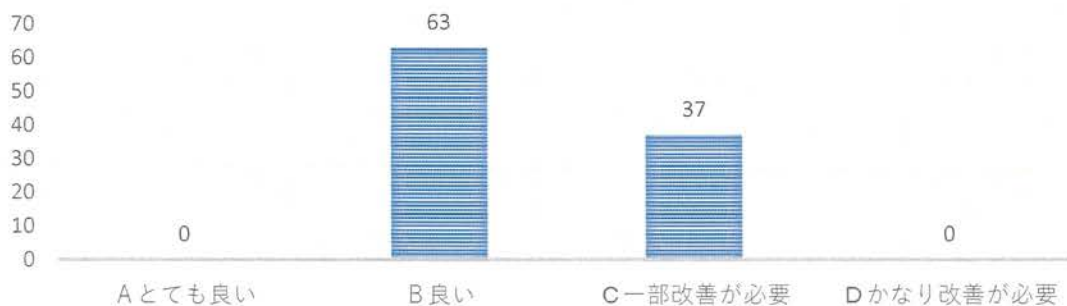
園評価【B】

Q71職業上知りえた情報を、自分の家族や友人にでも話さないようにしている

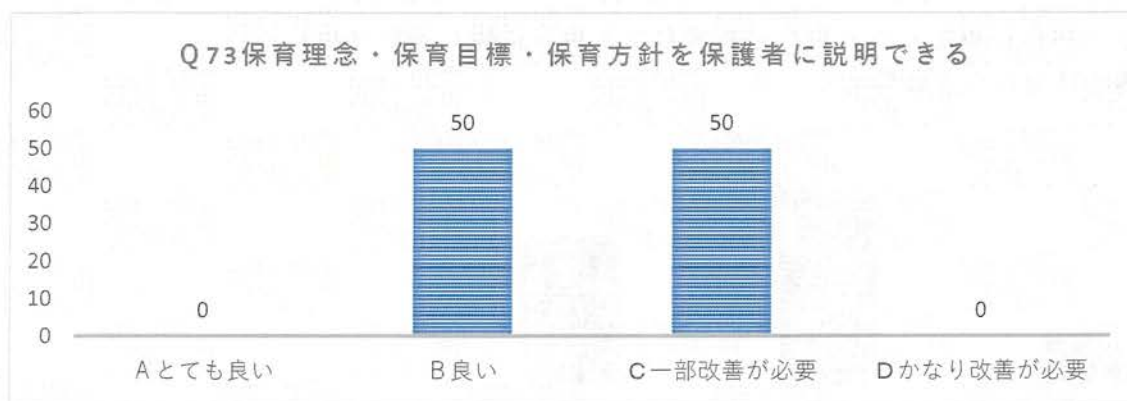


園評価【B】

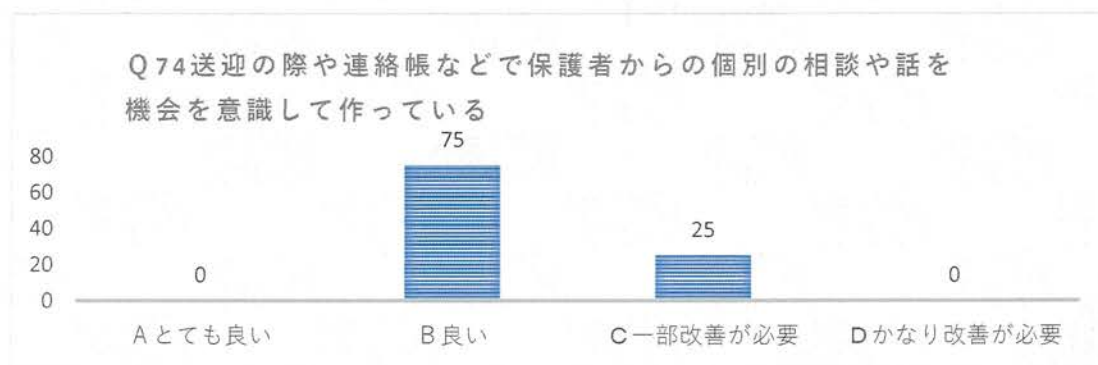
Q72保護者との信頼関係が、あり的確なアドバイスができる



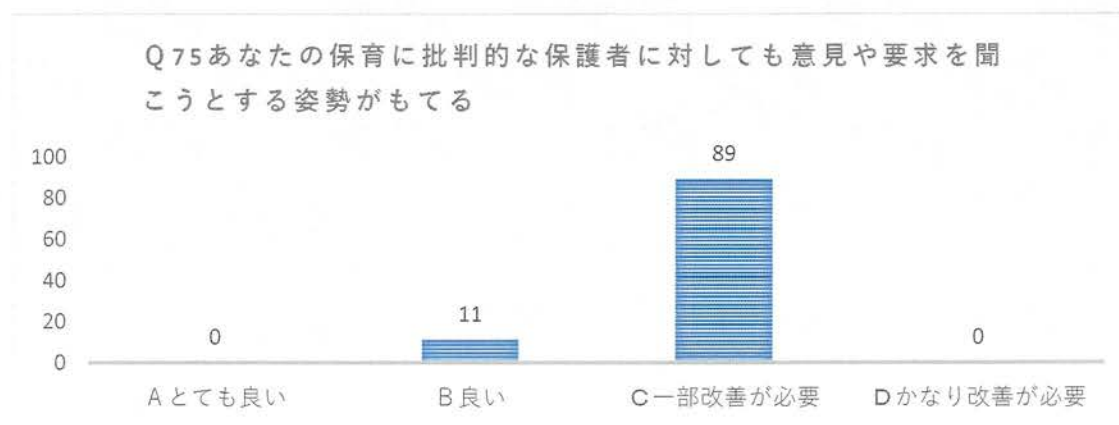
園評価【C】



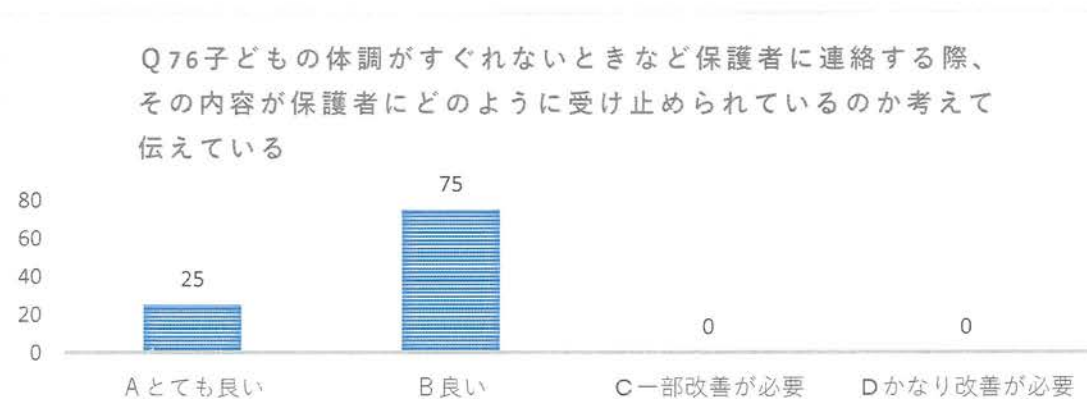
園評価【C】



園評価【B】

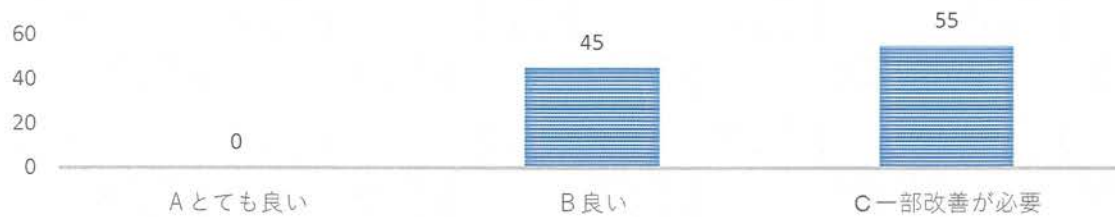


園評価【B】



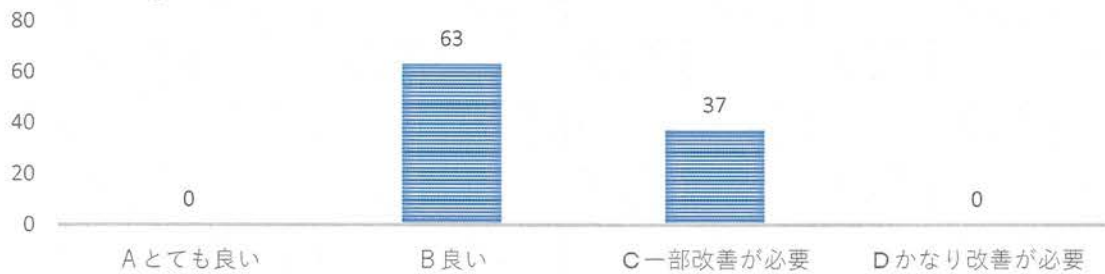
園評価【B】

Q 77火災、地震、不審者の侵入の際、きちんと対応する自信がある



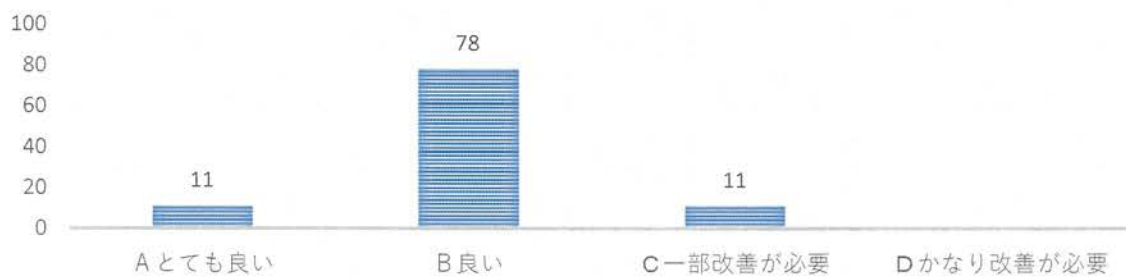
園評価【B】

Q 78園舎内外の環境整備、衛生、清潔に気を配り実践している



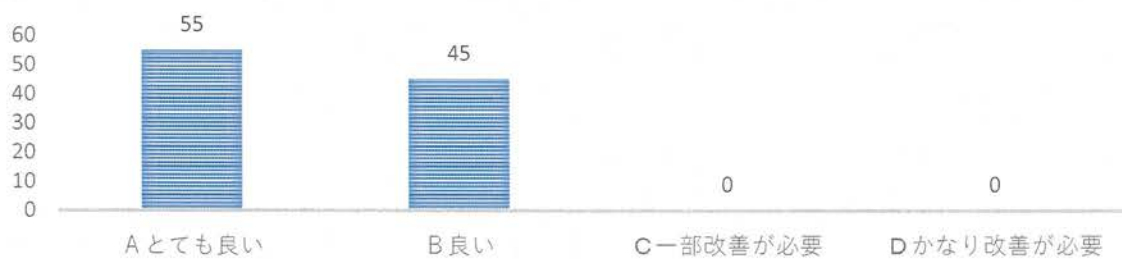
園評価【B】

Q 79報告、連絡、相談を適切に行っている

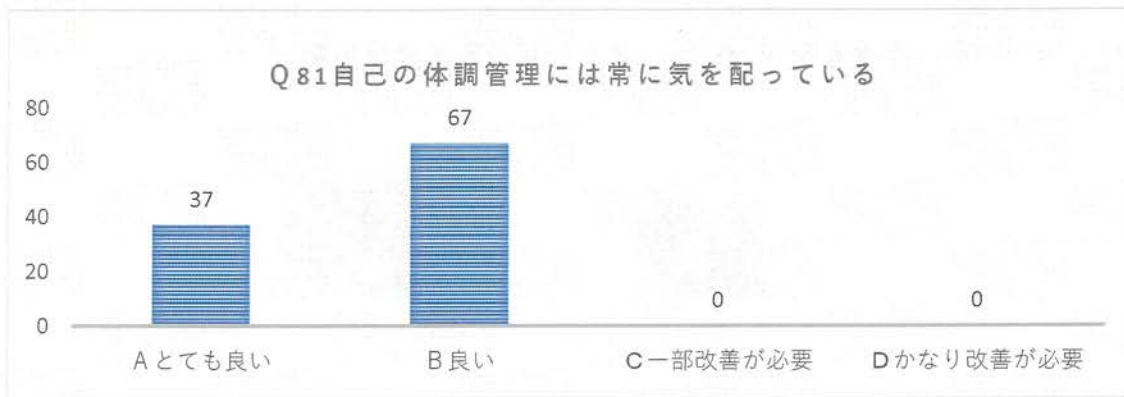


園評価【B】

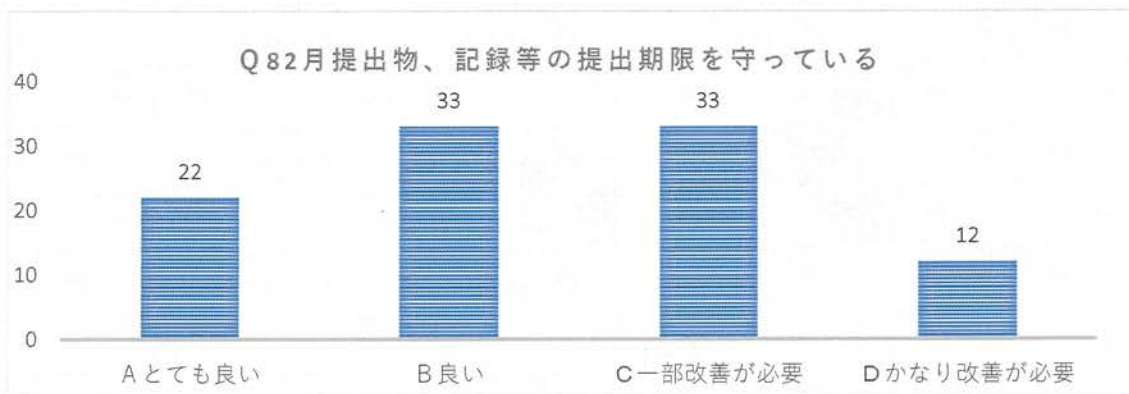
Q 80率先してあいさつや声掛けができています



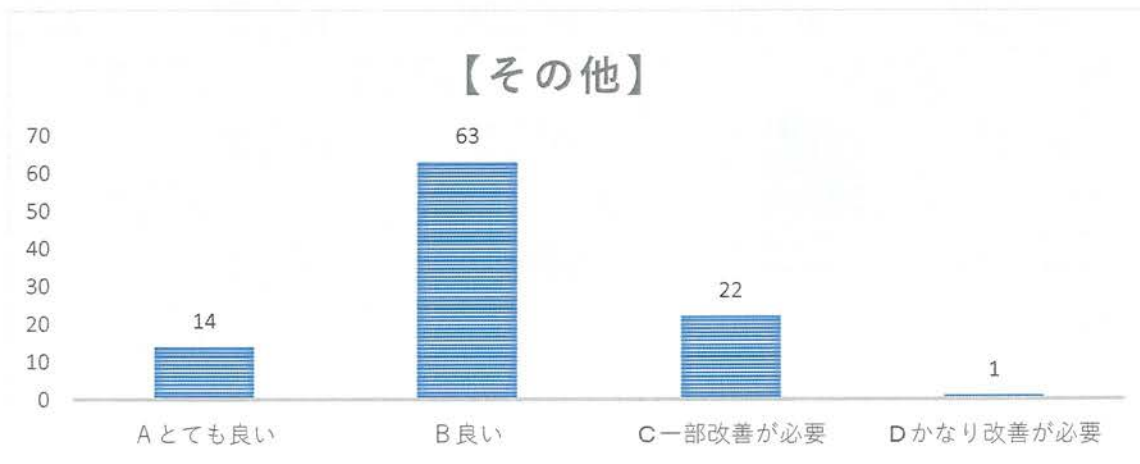
園評価【A】



園評価【B】



園評価【B】



園評価【B】

保育者自身がスキルを高め保育所保育の内容を理解するためにより一層の自己研鑽を期待する。また保護者対応についてもQ75でc評価が多いが保育者は保護者に真摯に対応しているものと判断した。保育者自身の中での葛藤があるものとする。様々な形で意見交換、情報交換をしながら保護者との信頼関係を強めていきたい。

災害時対応については、計画的に避難訓練等を実施し、保育者はその都度緊張感をもって臨んでいる。実際の対応に不安を感じているが、その点については当然であり、統括者の指揮の重さを感じている。

自己評価を実施して

全体的に自己評価と園評価の差は昨年度と同様にさほど大きくはない。保育理念・保育方針・保育目標・全体的な計画を自分のものとして実践し、自分たちの日々の保育を保護者にわかりやすく説明していくことが保護者の信頼の礎となると考える。そのためにも職員一人ひとりの自覚、また学びが更に求められる。

自分の強み、また弱みを自覚して、他の職員を助けたり、また助けられたりしながら、全体としてのスキルアップを期待する。そのためにも情報交換を密にして、決して一人で抱え込むことがないようにして「子どもの最善の利益」を守っていく保育集団でありたい。

小さな「はねかわ保育所」ではあるが、一人ひとり（こども・職員）がのびのびと大きく成長していく姿を期待している。

